

医家芸術 冬季号 目次

61 巻 通巻 630 号 (2017 年度)

年頭所感

日本医師会会長	横倉 義武……………	2
日本薬剤師会会長	山本 信夫……………	5
東京都医師会会長	尾崎 治夫……………	6

第 64 回医家美術展 ……………	8
第 46 回医家写真展 ……………	20
第 55 回ドクターズファミリーコンサート ……	32
第 61 回邦楽祭 ……………	36

◇医家随想

病入膏盲	
豊泉 清 ……………	45
物がなかった時代	
穂苅 正臣 ……………	48
チェーホフを読む (12)	
藤倉 一郎 ……………	49
「ピースアクション イン ヒロシマ」に参加して	
浜名 新 ……………	52
木になる鶏	
出来 尚史 ……………	57
夢はまぼろし 序章	
八潮 哲三郎 ……………	65
記備談語 -7-	
佐藤 玄祥 ……………	73
サイパン戦跡巡り	
美濃部 幸恵	
美濃部 欣平 ……………	88
島津斉彬の死	
服部 瑛 ……………	96

謹賀新年 御挨拶 ……………	102
----------------	-----

医芸俳壇 ……………	105
医芸柳壇 ……………	105
医芸歌壇 ……………	106

◇ほん

『ひとつのいのち』	
林 宏匡 著 ……………	108
『アラビアの医師— イブン・ナフィス』	
藤倉 一郎 著 ……………	109

クラブ通信 ……………	111
透視像 ……………	112
編集後記 ……………	112

原稿募集のお知らせ ……	101
表紙の言葉 ……………	107

年頭所感 2017年（平成29年）

日本医師会

会長

横倉 義武



明けましておめでとうございます。国民の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年4月、6年前の東日本大震災の恐怖を再び呼び起こさせるような大地震が熊本で発生しました。また、昨年は各地で台風を始め天候不順が続き、土砂災害や洪水、更には火山噴火等、さまざまな災害が相次ぎ、多く

の方々が避難生活を余儀なくされました。災害はいつ起きるか分からず、万全な備えをしておくことが必要です。日本医師会といたしましても引き続き、災害対策基本法上の指定公共機関としての責務を果たしていく所存です。

さて、2025年に向けて地域包括ケアシステムの構築が急務となっていますが、本年3月までには各地域で地域医療構想が策定されることになっていきます。各地域における住民の年齢構成や医療資源、交通アクセス等、その置かれた状況はさまざまであり、地域の特性に合わせた構想を策定するためには、地域医療を担う医師会と行政が強固な信頼関係を構築し、各地域に求められる医療の姿を共有していかなければなりません。

せん。

わが国では、脳卒中を発症した場合、まずは医療機関に搬送されることとなります。回復すれば自宅に戻り、更にリハビリや医療サービスが必要な場合は回復期病棟等や慢性期病棟等で療養を続けたり、介護が必要であれば、老健や介護施設で介護サービスを受けることもあります。また、自宅に帰って再び発症するということがあれば、再入院するといったことが繰り返されるわけですが、こうした過程においても、常に患者さんの人生を見守っていく「かかりつけ医」の役割は大変大きいものがあります。最終的に患者さんが安心して旅立たれ、また家族の方々がその患者さんを心安らかに送り出すところまでしっかりと見届けていく、

こうしたことが来るべき超高齢社会における医療の姿なのではないでしょうか。

今年、トランプ米国大統領が誕生し、わが国でも国防問題や経済政策、社会保障を巡って活発な議論が展開されることが予想されます。政府では新たに設置した未来投資会議において、第4次産業革命として、ICTの活用により必要なサービスが必要な時に必要な人に届く、超スマート社会の実現を打ち出しておりますが、かかる状況においても必要なことは、人を大事にする政治、政策であると思います。昨年、あるシンポジウムで「国民の健康」についてさまざまな議論を交わす機会がありました。その過程においてこの思いを強くしました。

資源に恵まれていない日本が、広大な土地と豊富な資源を有する超大国と互角に対応できた要因は人であ

り、子ども達の健康と成長を見守りながら、健全な教育を施してきたからに他ありません。医療と教育に対して予算が回らないようであれば、あらゆる意味で国が衰退していくのは明らかであり、この2つを犠牲にするような政策は断じて行ってはなりません。

医療政策の立案を担う厚生労働省の方々には、ぜひ医療現場の方々と実際に交流し、その実情を的確にキヤッチすることで、現場の声を反映した政策の立案をされるだけでなく、財務省ともしっかり議論され、適正な社会保障財源を獲得していただきたいと思います。

また、昨今では、加重労働による痛ましい悲劇が散見されるようになりました。医師の中には患者さんの状態が刻々と変化していく中で、夜間、人生の最期を迎えようとする患者さんを前に、勤務時間外だからと

帰るわけにはいかず、何日も徹夜して診療に当たったというような経験をお持ちの方も多くおられます。

若い医師の方達には、患者さんに寄り添うというその心をぜひ、受け継いでいつていただきたいと思いますが、過重労働状態の中で医療を行うことは患者さんのためにはならないことは明らかです。この問題の解決のためには、より働きやすい環境整備に努めることはもちろんのこと、医師の側においても働き方に対する意識を変えていく必要があるのではないかと考えています。

昨年10月には、東京工業大学の大隅良典栄誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。日本人としては、前年の大村智北里大学特別栄誉教授に続く2年連続の快挙です。大隅栄誉教授は記者会見の席上、「大学の研究環境の劣化により、将来的にノーベル賞が出なくな

る」と不安を述べておられました。臨床医学は基礎医学がベースにあつて始めて成り立つものです。日本の医学が非常に高い水準を維持できたのは、基礎医学に従事された方々のご尽力によるところが大きく、医学の将来を俯瞰すると、基礎医学の研究に関する環境づくりも、医療界のみならず社会全体で考えていくべき課題ではないかと感じております。昨年11月に、安倍晋三内閣総理大臣にお会いした際に、医療研究に優れた功績を挙げられた方々を顕彰するため「内閣総理大臣賞」の創設することを要望してきましたが、本賞の創設が実現し、医学研究に携わる先生方の励みとなることを願っております。

終わりになりますが、私は昨年10月に開催された世界医師会台北総会におきまして、世界医師会次期会長に選出いただきました。国民の健康

寿命を世界トップレベルにまで押し上げたわが国の医療システムやノウハウを広く世界に発信していきたいとの思いで立候補いたしました。現在ではグローバル化の進展と相俟つて、医療界を取り巻く多くの問題が国境を越えて立ちほだかつております。その解決に向けて、世界医師会が果たす役割はますます重要になると考えており、その責任の重さを痛感しております。

一方、わが国においては少子高齢化に伴う医療提供体制の再構築や医師の地域偏在、診療科偏在の問題、更には医療の高度化等に伴う医療費の増大への対応など、多くの問題が山積しており、わが国の医療が進むべき道筋を早急に示す必要があると考えています。

とりわけ熱かった昨年の夏、日本のみならず世界中をより一層熱くさせたあのブラジル・リオでのオリンピック

ピック・パラリンピックが、3年後にはこの日本で開催されることとなります。開催に当たっては、外国人観光客の受け入れ態勢や熱中症対策、更にはイベント関連事故や自然災害、テロリズム等による予測不可能な傷病者への災害医療体制など、多くの課題も残されておりますが、東京都医師会始め、関係機関とも協力し、その準備を進めていく所存です。

「地域から国へ」、そして「日本から世界へ」を目指し、日医執行部はこれからも一丸となつて対応して参る所存でありますので、国民の皆様方には深いご理解と格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。ごあいさついたします。

日本薬剤師会

会長

山本 信夫



新年あけましておめでとうござい
ます。皆様におかれましては、お健や
かに輝かしい新年をお迎えのことと
お慶び申し上げます。平素より日本
薬剤師会の諸事業に格別のご理解と
ご協力を賜っておりますことに、厚
く御礼申し上げます。また、本会にお
きましては、昨年6月、新執行部が発
足いたしました、あらためまして
よろしくお願い申し上げます。

世界に類を見ない速さで少子高齢
化が進む中、国民皆保険・皆年金を維
持し、これを次世代に引き渡すこと

を目指した改革への取組が本格化し
ています。高齢化が進んでも、社会保
障制度が期待される機能を十分に果
たしていることは国民の願いです。

その実現のため、医療・介護提供体制
の適正化、負担能力に応じた公平な
負担、給付の適正化等に係る改革等
を進めるとともに、医療及び介護に
おいては、住み慣れた地域で医療・介
護・予防・住まい・生活支援が一体的
に提供される「地域包括ケアシステ
ム」の構築が進められています。

こうした中、平成27年10月に厚生
労働省が公表した「患者のための
薬局ビジョン」では、薬局を患者本位
の「かかりつけ薬局」とするための道
筋が示されるとともに、地域包括ケ
アシステムの一翼を担う薬局と薬剤
師の目指すべき姿が明確に示されま
した。昨年4月に実施された調剤報
酬改定は、本ビジョンに示された方
向性が強く打ち出されたものになっ

たと思います。そして、かかりつけ薬
剤師・薬局が持つべき機能に加え、国
民による主体的な健康の保持増進を
積極的に支援する薬局が、昨年4月
より「健康サポート薬局」として、医
薬品医療機器等法上に位置付けられ
ることとなりました。

健康サポート薬局は、調剤や一般
用医薬品等の販売、在宅医療に必要
な医療・衛生材料や介護用品等の供
給、在宅患者訪問による服薬指導・管
理、地域住民による主体的な健康の
保持・増進の積極的な支援、健康や介
護などに関する相談を幅広く受け付
けるなど、地域包括ケアシステムの中
で重要な役割を担うものです。さ
らに、健康サポート薬局に常駐が義
務付けられた薬剤師の資質確保のた
めの「健康サポート薬局研修」制度が
はじまり、本会では、昨年9月より研
修の提供を開始しました。本研修を
修了した薬剤師が地域の中で専門職

や多職種と連携し、信頼される薬剤師として活躍することを期待しています。

超高齢社会に向けて、社会保障に関わる制度や規制の改革が進められる一方、医療の高度化・複雑化の進展など、私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。地域における薬剤師・薬局は、最適な薬物療法を提供する医療の担い手であるとともに、他職種や関係機関との連携・協働のもと地域住民の健康を支援する地域社会のリソースとして、重要な役割を担っています。安心して立ち寄りやすい身近な薬局において、医薬品等を供給するとともに、地域包括ケアシステムの中で多職種と連携して地域住民の相談役としての役割を果たし、国民の健康寿命の延伸に貢献していくことは、薬剤師が果たすべき大事な使命です。地域におけるチーム医療の一員として、患者が

使用する医薬品の一元的・継続的な薬学管理指導を担うとともに薬と健康等に関する多様な相談に対応し、必要な医薬品等の供給体制を確保するとともに国民のセルフメディケーションを支える、かかりつけ薬剤師・薬局の普及を推進して、国民の健康な生活の確保に今後とも貢献していく所存であります。

本年は酉年です。「酉」は果実が成熟した状態を表すと考えられています。

本年が、皆様方にとつて、充実した一年となりますことを心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも本会事業にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

明けましておめでとうございます。
日本医家芸術クラブの皆様方におか

東京都医師会

会長

尾崎 治夫



れましては、健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

日頃は、東京都医師会の会務運営並びに諸事業にわたり、格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本年も役員一同協働し、引き続き熱意と使命感をもって邁進してまいります。

さて、イギリスのEU離脱に始まり、アメリカ大統領選の予期せぬ結果など、世界の状況が混沌とする中、わが国は社会保障の一層の充実と皆保険制度の堅持により、国民、都民への今後の暮らしに対する安心感を与

えることを第一とすべきであろうと
考えております。東京都医師会とし
ても、日本医師会と連動して尽力し
ていくつもりであります。

平成30年の保健医療計画の改定
も、年明けから更に議論が本格化し、
夏頃には骨子案が作られるものと思
われます。東京都医師会といたしま
しては、従来の5疾病5事業に、東京
都独自のものとして、COPDと訪
日外国人医療を加えて、6疾病6事
業としてほしいということ、また各
事業の展開に当たっては、従来の二
次医療圏にとられない柔軟な事業
推進区域の設定を強く要望している
ところでございます。

東京オリンピック・パラリンピッ
クも、開催まで3年半と迫ってまい
りました。私ども医療界としても、受
動喫煙防止法の整備に向けた協力、
熱中症対策、新興感染症・自然災害・
テロなどに対する対策、増加する訪

日外国人医療への対応など、果たす
べき役割は山積しております。その
後に控えている2025年問題に向
けても、しっかりとした医療提供体
制の構築と更なる医療介護の連携が
必要です。

私ども東京都医師会は、本年も新
しい東京の医療を実現するために、
一歩ずつ着実に前へ進んでまいりま
すので、日本医家芸術クラブの先生
方におかれましてもご支援、ご協力の
程を何卒よろしくお願い申し上げま
す。

結びとなりますが、日本医家芸術
クラブの限らないご発展と各位のご
清祥を祈念いたしまして、新年のご
挨拶とさせていただきます。

第64回 医家美術展

2016年9月2日（水）～4日（日）

ギャラリー銀座『悠玄』にて

【 4日 美術展懇談会 】

文：白矢 勝一

平成二十八年九月二日

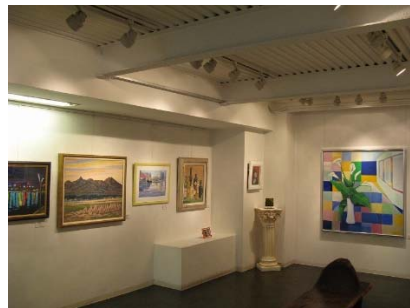
（水）～四日（日）、ギャラリー銀座

『悠玄』にて、第六十四回医家美術展
が開催されました。

今年は二十名による三十七作品が
出展され、力作ぞろいのすばらしい
美術展となりました。



懇親会では作品にかけた想いや近
況などを話し合い有意義な時間をと
もにしました。



日本医師会会長の横倉先生からご尊父が去年 97 歳で天寿を全うされたこと、医家美術展に上京することを楽しみにされていたことを Face book で教えていただきました。銀座画廊やメルサのギャラリーで医家芸術クラブが開かれていたころ、懇親会は多くの会員でいっぱいでした。当時ご一緒させていただいていたと思います。悠玄に出品された作品の品評を私がさせていただいたのが機関紙に残っています。



横倉 弘吉

◇横倉 弘吉「鉢」(8)
 鉢の花が静かにさいています。この奥ゆかしい感じは青紫の統一された色彩にあるのでしょうか。
 手前の花、葉と後の花、葉の遠近が色の彩度であらわされている。花瓶は途中までしか描かれていないが画面の外まで感じさせる力を持っている。力作です。

唐澤先生の奥様からお手紙をいただきました。以下に要約させていただきました。「昭和三十年代からお世話になりました。年一回の美術展で諸先生とお目にかかり作品を拝見させていただくのが楽しみでございました。療養中でしたが平成二十八年四月永遠の旅立ちをいたしました。孫が出展するのを楽しみにしておりました。長年ありがとうございました。」

そういえば、今年が最後になるかもしれないと懇親会に来られたことを思い出しました。その時の写真が残っています。安彦先生もお元気にマジックを披露された時でした。このクラブが大好きな先生が亡くなられたのは非常に残念です。諸先輩の冥福をお祈り申し上げます。

毎年お世話になっていた銀座のギャラリー悠玄は今年で閉鎖となります。来年からは交通会館ゴールドサロンにて11月開催予定です。



出展作品の紹介



榎本 貴夫『羊』
F4 油彩



榎本 貴夫『鳴子温泉郷』
M30 油彩



江川 政昭『五箇山の風景』
F20 油彩



榎本 貴夫『払曉—寶峯湖中国—』
F6 油彩

◆榎本 貴夫『鳴子温泉郷』

『払曉—寶峯湖中国—』
『羊』

滝の音が聞こえてきそうです。絵に凹凸がありますが、これは絵具の乾いたものを塗りこめたものだそうです。凹凸がある部分とまったくそうでない部分があるからこそ岩のごつごつした表情が浮き出くると思われます。

◆江川 政昭『五箇山の風景』

遠景、近景のバランスがいいです。屋根、藁、木の塀の物質間がよく描かれていてすてきです。

◆海老原 隆郎『ひまわり』

『日本銀行』

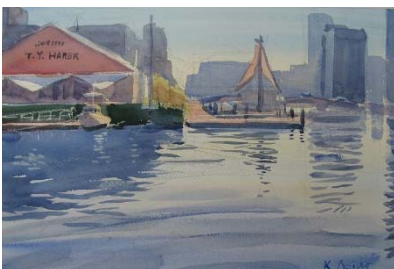
ひまわりは誰もが一度は描きたいと思う花です。いいですね。ひまわりはなかなか描くのは難しいですが、それをさらっと描かれています。壺



海老原 隆郎『日本銀行』
F 4 水彩



荻野 公嗣『バラ園』
B 3 水彩



荻野 公嗣『ウオーターフロント』
B 3 水彩



海老原 隆郎『ひまわり』
F 6 水彩



奥田 哲章『ケベックの少女』
F10 油彩

や葉、背景にバランスよくイエローが入っています。

◆荻野 公嗣『バラ園』

『ウオーターフロント』

この波はどうやって描いたのか？
本人に聞いたところ一気に描いたとのこと。よほどの腕がないというは描けません。

◆奥田 哲章『ケベックの少女』

『白い風車群(スペイン)』

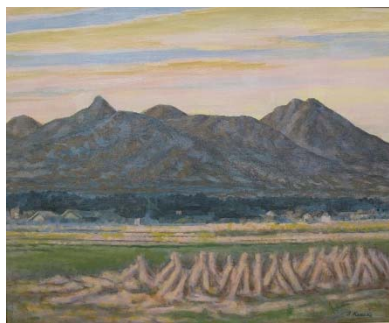
窓の外にお城があり少女が物憂げにこちらを向いて座っています。少女の身に着けている服、ネックレス、指輪、帽子、細かなところまで描かれています。色彩が柔らかくすべてを統一しています。



落久保 万里子『私の裸婦Ⅱ』
F 4 水彩



奥田 哲章『白い風車群(スペイン)』
F20 油彩



金古 進『榛名山』
F25 油彩



落久保 万里子『私の裸婦Ⅰ』
F 3 水彩

◆落久保 万里子『私の裸婦Ⅰ』

『私の裸婦Ⅱ』

女性のやわらかい肌、やさしい表情がすてきです。花の色とも調和しているですね。

◆金古 進『榛名山』

そろそろ懇親会も終わろうかという時に来場されました。事務の木下さんから懇親会の案内をいただいたので前橋から新幹線で来ましたとのこと。大いに場が盛り上がりました。榛名山(前橋)に思い入れのある作品だと感じました。鈴木博先生も前橋をよくご存じのようで、これは榛名山だと金子先生が来られる前に話していました。ともに山の話となりました。描かれた雄大な自然は先生の心の広さを表しているようです。



坂下 昇『壺』
F20 油彩



清水 妙子『pattern bar technique』
皿



木村 典子『悲しみ』
F15 油彩



坂下 昇『旧門司港』
F30 油彩



清水 妙子『pattern bar technique』
パネル

◆木村 典子『悲しみ』

うつむいて泣いている女の子、見上げる犬、それを見つめる作者。時間が止まったように感じるシチュエーションです。スカートや犬の毛が本物のように迫ってきます。物語を感じさせる一品です。

◆坂下 昇『正門の記憶』

『秋の伯耆大山南壁』

瓶のラベルの絵や文字が面白いです。瓶の物質感がよく出ています。日頃先生が楽しまれたお酒の瓶でしうか。床と背景の色は穏やかで、やさしい性格がにじみ出ているようです。

◆清水 妙子

『pattern bar technique』 皿

『pattern bar technique』 パネル
ガラスの作品を主に作られているということでした。美しい作品です。



白矢 勝一『少女』
F 8 油彩



白幡 雄一『裸婦』
F 50 油彩



白矢 勝一『ボンソワール』
F 8 油彩



白矢 勝一『カルメン』
F 3 油彩

◆白幡 雄一『裸婦』

裸婦と花、トルソという画家にとつては欠かせないモチーフを三つとも取り入れた作品です。私も裸婦に挑戦したことは何度かあります。裸婦を描くのは難しい。なぜなら裸婦を描いているとそればかり気を取られてしまうからです。実はその背景を作るのが難しい。先生の裸婦はいつもそこを考えていらつしやる。時には裸婦のそばに豹がいたりする。色彩も白と黒の中で生きています。すばらしい作品です。

◆白矢 勝一『カルメン』

『少女』
『ボンソワール』

昔、私は赤を追及したいと思ってほとんど赤だけを使って描いたことがあるのですが、それはだめだとわかりました。赤だけではないのですが、ある色彩を表したいなら、白とか



鈴木 啓之『青森ねぶた(1)』
F 8 油彩



鈴木 啓之『青森ねぶた(2)』
F 8 油彩



鈴木 博『赤と黒と』
F 4 油彩



鈴木 啓之『壊れた壺』
P 10 油彩



鈴木 博『無題』
F 8 油彩

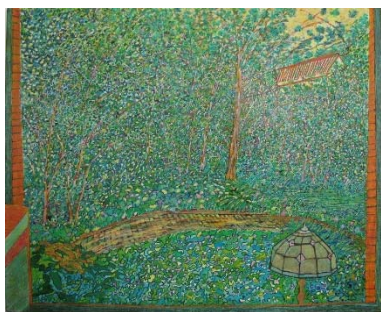
黒、他の色彩を使わないといけない、
そんなことを思い出しました。

◆鈴木 博『赤と黒と』 『無題』

黒い帽子と赤い服、背景はかなり
考えられた色彩でしょう。主体の印
象が深く心を打ちます。女性は何を
思っているのでしょうか。やや笑みを
浮かべたようにも見えます。髪や服
の手ざわりを感じさせるすごさがあ
ります。

◆鈴木 啓之『壊れた壺』

『青森ねぶた(1)』
『青森ねぶた(2)』
壺、花瓶は先生の得意とするところ
です。闇の中で圧倒的な存在感で
せまってくる花瓶。すてきです。



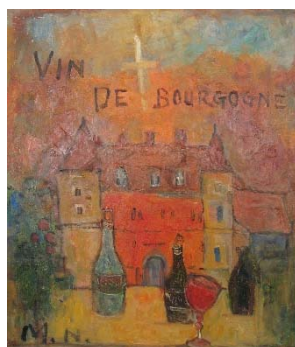
長沼 弘三郎『庭』
F20 油彩



野口 眞利『マルセーユ』
F12 油彩



長沼 弘三郎『円』
F8 油彩



野口 眞利『建物』
F15 油彩

たです。もう少しくつき方を工夫するとよかったと思います。全体の色はとてもいいです。

◆野口 眞利『マルセーユ』 『建物』

懇親会の時、ちょうど京王デパートで個展をされていて懇親会にはご欠席でした。先生の絵はイエローオーカー、オレンジ、レッドの色彩の楽しさ、線のすごさを見ることができます。かの林武は「自然に線は無し」という言葉を残しています。西洋画では線は扱われないことが多かった。ところが先生の場合は、さらーと線を描いて、手とか建物を表現されるのです。私も試みたいものです。

◆長沼 弘三郎『庭』『円』

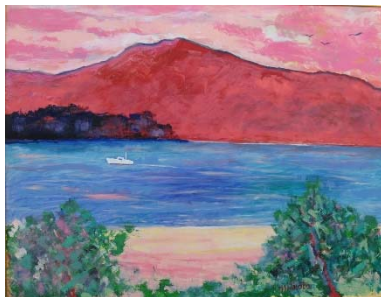
マチエールのすごさ、このような描き方はとても考えられない。なにか魔法のような方法があるのではな



山崎 嘉弘『カラー』
S50 アクリル水彩



山崎 嘉弘『ひまわり』
F20 アクリル水彩



新本 稔『瀬戸の夕焼け』
F50 油彩

いかとを考えてしまう。一つ一つの細かい文様を描くには膨大な時間がかかるのではないか。そのすごさをバックに主体が生えている。この方法はデザイン学科の人たちの方法ではないだろうかとは推測している。

◆新本 稔『瀬戸の夕焼け』

大胆な試みです。空、山、海、木の緑の異なった色彩が違和感なく落ちていた雰囲気で見るとものに迫ってきます。空を飛ぶ鳥、海の船も微妙なアクセントを放っています。素敵な作品です。

◆山崎 嘉弘『カラー』

『ひまわり』

不思議な絵です。窓のある壁と床の二つの3角形は何とも言えないうまさを感じます。話題になったのは作者が一番苦労した場所はどこだろうか。抽象、具象、遠近感などの要素



山田 治『夜明け（香港）』
F20 油彩



山下 婦美子『サマータイム』
P30 油彩



山田 治『港の夜（香港）』
F10 油彩

を話し合ったのち、中心に近い葉っぱの下あたりが最も工夫した場所だろうということになりました。謎解きも楽しめます。

◆山下 婦美子『サマータイム』

色合いが素敵です。うまく統一されています。ブルーを基調に肌色、レッドがしつくり絵の中で溶け込んでいます。扇のホワイトと髪の毛のブラックも違和感なく画面を構成しています。静けさの中に緊迫感のある絵です。

◆山田 治『夜明け（香港）』

『港の夜（香港）』

空と海に生える色彩の束、香港の夜景が抽象、具象の間で表現されています。ブルーが主体の画面にホワイト、レッド、イエローがきれいです。空や海の動きも感じられすてきな作品です。

第64回医家美術展

2016年9月2日～4日

氏名	作品名	サイズ	種別	専門科目	所属
榎本 貴夫	鳴子温泉峡 弘暁一寶峯湖中国一 羊	M30 F6 F4	油彩	脳神経外科	つくば市
江川 政昭	五箇山の風景	F20	油彩	皮膚科	広島
海老原 隆郎	日本銀行 ひまわり	F4 F6	水彩	内科	東京・江戸川
荻野 公嗣	バラ園 ウォーターフロント	B3 B3	水彩	眼科	東京・練馬
奥田 哲章	白い風車群(スペイン) ケベックの少女	F20 F10	油彩	整形外科	広島
落久保 万里子	私の裸婦Ⅰ 私の裸婦Ⅱ	F3 F4	水彩	家族	広島
金古 進	榛名山	F25	油彩	外科	前橋
木村 典子	悲しみ	F15	油彩	内科	東京・杉並
坂下 昇	旧門司港 壘	F20 F10	油彩	外科	広島
清水 妙子	「pattern bar technique」ハネル 「pattern bar technique」皿		ガラス工芸	甲状腺科	東京・花小金井
白幡 雄一	裸婦	F50	油彩	耳鼻科	東京・千代田区
白矢 勝一	カルメン 少女 ボンソワール	F3 F8 F8	油彩	眼科	東京・小平市
鈴木 博	赤と黒と 無題	F4 F8	油彩	耳鼻科	東京・板橋
鈴木 啓之	壊れた壺 青森ねぶた(1) 青森ねぶた(2)	F10 P8 F8	油彩	皮膚科	川口市
長沼 弘三郎	庭 円	F20 F8	油彩	泌尿器科 人工透析・皮膚科	宮崎
新本 稔	瀬戸の夕焼け	F50	油彩	外科	広島
野口 眞利	マルセーユ 建物	F12 F15	油彩	内科	東京・練馬
山崎 嘉弘	カラー ひまわり	S50 F20	アクリル水彩	内科	静岡市
山下 婦美子	サマータイム	F30	油彩	内科	東京・杉並
山田 治	夜明け(香港) 港の夜(香港)	F20 F10	油彩	精神神経科	東京・板橋

第46回 医家写真展

平成28年10月12日(水)～16日(日)

JCII フォトサロンにて

今年も千代田区にあるJCIIフォトサロンにて、十月十二日から十六日に第四十六回医家写真展が開催されました。

十九名の会員により三十八作品が展出され、今回も力作揃いの写真展となりました。

長年にわたり写

真部の部長をしてくださった竹腰先生が部長職を退かれ、新たに岩瀬先生が部長に、本村先生と山本先生が副部長になりました。

最終日に行われた懇親会では、撮影秘話や近況報告などを語り合い、有意義な時間を過ごしました。

ここに出品作品をご紹介します。

出展作品の紹介

◆石井 光子

『あのね…』

『ここにもスヌーピーが』



あのね…

【銀賞】評…なんと言っても少女の聞き耳をたてている笑顔が可愛いです！ 素敵な日常を切り取れた作品だと思います。



ここにもスヌーピーが

評…影を何かに見立てた写真というのは見る人に想像力を与え、面白い作品になることが多いです。また是非挑戦してみてください。

◆岩瀬 光

『氷河湖に沈む月』

—アイスランド—

『サンモリッツ湖の朝』

—スイス・アルプス—



サンモリッツ湖の朝
—スイス・アルプス—

評：素晴らしい作品です。構図・露出・ピント、文句なし。月の位置と映り込んだ月の光、縦位置の構図が成功しています。



氷河湖に沈む月
—アイスランド—



オランダ暮色

◆大武 秋生
『オランダ暮色』
『街角の花売り』

【銅賞】評：澄んだ朝の空気感、深い緑の湖に山頂をたなびく白い雲、走る2人の自転車の位置と影、とても清涼に充たされる写真に仕上がっています。2作品ともカレンダー写真のように完成されています。



街角の花売り

評：カラフルな色が眼に飛び込んできて楽しい作品です。ピントが手前の赤いカーネーションに合っている

【入賞】評：すっかり暮れ、樹も家もシルエットの素敵な黄昏です。左の家と右の樹の繁みが画面2分割になっているのが惜しまれます。右の街灯までカットして左の家並みを少し多く入れたらまた素敵な感じになったかもしれません。

ので、女性が少しぼけていますが、意図したものでしょうか。花をメインに撮っても面白い作品になったかもしれないですね。

◆木村 典子

『ホロコースト記念碑』
『地下牢の跡』



ホロコースト記念碑

【金賞】評：画面が左右、3対2の分割になっているのがいいです。黒い

柱のグラデーションが白黒を思わせる重厚な写真に仕上がっています。手前の人物が左の広い方向に向いて、奥の人物が右の狭い方向に向いているのもよかったです。



地下牢の跡

評：ナチズムに抵抗して拷問を受けたとされる地下牢の跡。胸が痛くなる場所です。

◆佐々木 正

『錦 秋』
『内戦後復元（クロアチア）』



錦 秋

評：ゆらぎのない水面に映し出された色鮮やかな紅葉が圧巻です。無駄なものを入れず、紅葉だけを納めたのがこの作品の迫力を出していて素晴らしいです。



内戦後復興（クロアチア）

評…地中海沿岸の国々によくみられるオレンジ色の瓦屋根です。こちらも余計なものを入れず屋根だけを連ねて画面いっぱいに入れたので迫力ができました。天気が良いと海の青や空の青を入れて色のコントラストを楽しめる作品にもなります。

◆白矢 勝一

『かもめの昼休み（フランス）』
『昼下がりの階段（フランス）』



かもめの昼休み（フランス）

評…ひっそりと休んでいるカモメがかわいらしいですね。テントの赤色や洗濯物、などに眼を奪われますが、そんな中で静かに休んでいるカモメが本場に「昼休み中」のようではっこりします。



昼下がりの階段（フランス）

【入賞】評…階段の上をまたぐ白い洗濯物と少し見える碧い空。強い午後光と影がパリの裏階段の様子を映画のワンシーンのように見せていて素敵な作品です。

◆白矢 泰三

『木漏れ日ハート（フランス）』
『悲しみのジュ・テーム（フランス）』

評…ストリートアートのひとつですね。ハートを書いている男性の後ろ姿が描かれています。柔らかい木漏れ日が優しい雰囲気を出しています。素敵なスナップになっています。



木漏れ日ハート(フランス)

評…芸術の街パリ。なんと素敵なストリートアートなのでしょう。画面の3分の2を壁とし、3分の1が通りを歩く人にしたのが、静と動になり構成は成功です。黒い涙が胸を衝きます。



悲しみのジュ・テーム(フランス)

◆白矢 智靖
『ストリートバルーン(ポルトガル)』
『ビックバルーン(ポルトガル)』



ビックバルーン
(ポルトガル)

評…笑顔の兄弟、後ろ姿のカップル、見とれる通行人とよくまとまっています。



ストリートバルーン
(ポルトガル)

評…大きなシャボン玉が出来た時の
決定的瞬間を捕らえた作品です。手
前の人の頭はないほうがよかったで
すが、シャボン玉への光の入り方な
どきれいです。

◆白矢 輝靖

『静かな午後（明石）』
『考える人歩く人（フランス）』



静かな午後（明石）

評…日本家屋の白壁屏と瓦屋根、撮影

に立つ位置がよかったです。奥に立
つ塔がアンバランスで面白いです。



考える人歩く人（フランス）

評…面白い作品です。題名の通り、考
える人と歩く人が写っています。光
の部分と影の部分がきれいに出てい
て素敵な構図です。

◆関口 直男

『フラワーコンサート』
『オータムバイオレット』



フラワーコンサート

【入賞】評…やわらかい光でやさしい
感じの作品になっています。



オータムバイオレット

評…立体感が出ていて素敵な作品です。左下から右上にかけて斜めに花を配置して紫のラインを作ったのがとてもいいです。

◆竹腰 昌明

『臥龍海（中国）』

『ブライスカニオン（米国）』



臥龍海（中国）

評…水面の光がエメラルドグリーンの水の色を引き立てていてとてもきれいです。構図も色調もいいです。



ブライスカニオン（米国）

評…自然の迫力を感じる作品です。断面の様子がしっかり映し出されていて歴史を感じる風景です。朝夕の赤い太陽光が当たるとまた一段と迫力がでる作品になるでしょう。

◆竹中 康雄

『明日もきつと』

『瀬戸夕景』



明日もきつと

【銅賞】評…落日寸前に色づく海面と船上、寄り添う2つの影、映画のワンシーンを見る様です。明日もきつと2人にいいことが…。



瀬戸夕景

評：全面の黒い2つの島と後ろのハ
ーフトーンの2つの島がバランス良
く配置されていて安らぐ写真になっ
ています。瀬戸の静かな海の情景が
映し出されている素敵な作品です。

◆中野 義宏

『砂浜の貴婦人』
『波よ喬くなれ』



砂浜の貴婦人

評：まず構図がいいです。貴婦人の立
つ位置、水平線、碧い海から打ち寄せ
る波が人物の手前であるのが小さな
緊張感を誘います。砂浜に映る影も
文句なし。左上端に入っているダイ
ヤモンドヘッドが心にくい程です。



波よ喬くなれ

【入選】評：斜めに撮影したことで、
波に乗っている感じが出ています。
被写体を大きく撮れば迫力のある作
品になりますね。この構図では題名
の通り穏やかな海の様子がわかり、
早く波が来てほしいという感じが伝
わります。

◆逸見 和雄

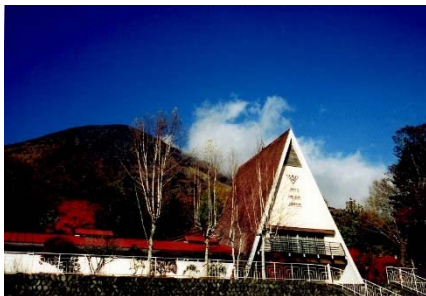
『すすき』

『山のホテル』



すすき

評…すすきに逆光と風がよく似合います。下方を少しカットして空をもう少しいれて引きつけたすすきをブラして撮っても面白い作品になったかもしれないですね。



山のホテル

評…ホテルの赤い屋根と、青い空そして屋根の上に白い雲、色のコントラストがとてもきれいです。

◆本村 美雄

『夏のある日（河口湖）』

『カルカソンヌ城の黄昏時

（フランス）』



夏のある日（河口湖）

評…こんな日があるのだと思われしました。富士山の頂上の雲、その下をたなびく雲の長さ、湖面をはしるボートの白波、すべてが右を向いている素敵な作品です。見事です。



カルカソンヌ城の黄昏時
(フランス)

【銅賞】評…お城のライトアップがいい雰囲気を出していて素敵な作品です。黄昏時とのことでまだ手前の建物も写っています。これからどんどん暗くなっていく感じが伝わってくる作品です。

◆本村 香都子

『大雪山旭岳（北海道）』

『オホーツク海岸（北海道）』



大雪山旭岳（北海道）

評…画面上部では山頂が切れていますが、手前の水面にきれいに山頂が写っています。あえて山頂を切ったのはよかったと思います。素敵な作品です。



オホーツク海岸（北海道）

評…トリミングで仕上げたこの画がいいですね。波の位置と鷗の向きがすべて違ってするのが楽しいです。

◆松本 俊一

『ナムツオ湖（チベット）』
『幽静（長野御射鹿池）』



ナムツオ湖（チベット）

【入賞】評… 思い切った大胆な構図です。青のグラデーションが画面いっぱいに映し出されていて面白いです。題名にある湖よりも冠雪の三藐に眼を奪われます。



幽静（長野御射鹿池）

評… 自然が作り出す緑がとてもきれいにきりとられていて素敵な作品です。波ひとつない水面が静けさを表しています。

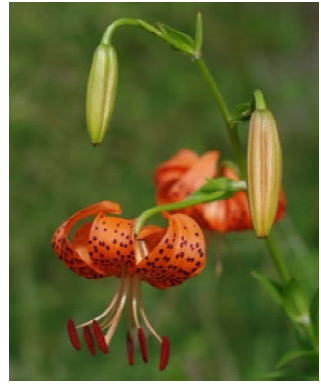
◆村上 泰

『ナデシコ』
『小鬼ユリ』



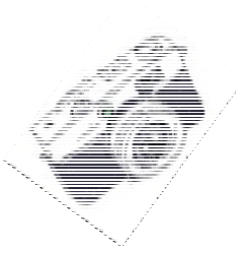
ナデシコ

評… 白と濃淡のピンク色がとても可愛らしく、可憐なナデシコを映し出しています。どこかひとつ目を引きつける花をつくってもよかったかもしれせん。



小鬼ユリ

【入選】評：絞りピントの位置がとて
もよかったです。花の撮影に手慣れ
ている方だとわかります。素晴らし
いです。小鬼ユリの蕾の位置が見事
でした。



◆山本 健一
『穂 高』
『白 馬』



穂 高

評…ガスが晴れてきて穂高が見え始
めたところを見事に撮られました。
構図も湖、山、空と3分割になってお
り、人物もうまく配置されています。
白い靄（もや）のたなびきもいい効果
を醸し出しています。このような条
件はめったにあるものではないので、



白 馬

評…【銀賞】白樺の並びがこの作品を
物語っています。白と緑のコントラ
ストがきれいです。光の当たり具合
も丁度良いです。素敵な作品です。

出会えたのは普段からの心構えかも
しれません。素晴らしいです。

第55回ドクターズファミリーコンサート

2016年11月20日(日)シラヤアールスペースにて開催

医家芸術ファミリーコンサート



2016年11月20日 開演：14時30分 シラヤアールスペース

開会の挨拶 松木 耀子

司会：玉澤 明人

1 クラリネット・ハーブのデュオ 大野 ますみ (千葉・皮膚科) 飯塚 崇志 (横浜・皮膚科)

「秋の木の葉」より メランコリックなセレナーデ 作曲：A. アッセルマン

グリーンズリヴス ヴァリエーション イギリス民謡

2 テノール 浅野 尚 (千葉・耳鼻科) ピアノ 西島 麻子

死んだ男の残したものは

作詞：谷川俊太郎 作曲：武満 徹

Ideale(理想)

作曲：トスティ

3 フルートとピアノの合奏 高野 征夫 ピアノ 竹内 綾

アンダンテとスケルツォ

作曲 ポール・タファネル

4 ピアノ独奏 清水 裕子 (武蔵境・眼科)

涙のトッカータ

作曲：ポール・モリーヤ

ピアノソナタカッコー 1 楽章

作曲：ベートーベン

5 女声コーラス 小川昭子 (狛江市・小児科) 松木耀子 (小平市・眼科) ピアノ 刑部美也子

1 埴生の宿 2 ローレライ 3 うるわしの白百合

6 サックス小沢 尚 ヴァイオリン西尾 康英 ピアノ片桐麻衣子 歌 白矢 勝一

Amazing grace

7 ソプラノ 松木 耀子 (小平市・眼科)

野バラ

作曲：シューベルト

初恋

作曲：越谷達之助

8 ピアノ独奏 倉本 慶子 (三鷹市・眼科)

ワルツ op. 69-2

作曲：ショパン

ワルツ op. 18 「華麗なる大円舞曲」

作曲：ショパン

9 ピアノ 萩野 仁志 クラリネット 飯塚 崇志

カンツォネッタ

作曲：チャイコフスキー

休憩 (乾杯)

10 オケストラ 指揮：飯塚 崇志

映画「ニューシネマパラダイス」よりメインテーマと愛のテーマ

ベートーベン交響曲第7番第2楽章



休憩

11 歌 白矢 勝一 (小平市・眼科)

戦争は知らない
あの素晴らしい愛をもう一度

12 クラリネット演奏 萩原 博道 (三鷹市 外科) ピアノ長 由美子 ベース佐々木 建志

Memories of you 作曲 : E. blake
Summertime 作曲 : G. gershwin

13 サックスの演奏 小沢 尚 ピアノ萩野 仁志

On a clear day you can see forever

14 テナーサックスの演奏 原 章彦 (狛江市 外科) ピアノ萩野 仁志

Recado bossanova 作曲 : ハンク・モブレー
ひまわり 作曲 : ヘンリーマンシーニ

15 ギターの弾き語り 奥村 秀 (小平・眼科)

Blowing in the wind

16 はぐどばん ピアノ萩野 仁志 (町田市・耳鼻科) ベース 佐々木 建志 (町田市・外科)

ドラム 有吉拓

Waltz for Debby 作曲 : Bill Evance
A night in Tunija 作曲 : Dizzy Gillespie
Alice in wonder land 作曲 : Sammy Fain

閉会の挨拶 萩野 仁志



昨年11月20日に行われた洋楽部主催のドクターズファミリーコンサートが、東京都小平市にある白矢眼科医院併設のシラヤアールスペースにて開催されました。今回は、北多摩医師会美術展とのコラボで行われました。

前半はクラシックを中心に歌やピアノ、合奏などが披露され、オーケストラ演奏でさらに観客を盛り上げました。後半はお酒の出るジャズ、ポピュラータイム。120人位の聴衆を前にして日頃の鍛錬を披露していただきました。

今年もドクターズファミリーコンサートを開催する予定です。近い将来、銀座ヤマハホールで開催したいと考えています。次回の出演者大募集です。観覧のみも大歓迎です。是非足をお運びください。日程など決まりましたら、日本医家芸術クラブの機関誌『医家芸術』やホームページな

どでご報告いたします。

一部ですが、写真を掲載しました。楽しい雰囲気が伝わればと思います。皆様のご参加お待ちしております。





日本医家芸術クラブ邦楽部

第六十一回 邦楽祭

邦楽評論家 宮西 芳緒

日本医家芸術クラブ邦楽部の《邦楽祭》は第六十一回を迎えて、平成二十八年十一月二十七日（日曜日）、例年通り日本橋三越劇場で開催された。内容も例年通り多彩な全十三番が揃う。

開幕に先立って、日本医家芸術クラブ委員長・太田怜先生が毎回楽しいお話を聞かせてくれる「開会の辞」。今回は「仕事が楽しみなら人生は極楽だ。仕事が義務なら人生は地獄だ」

というゴリキーの言葉を引きながら、プロには芸の修業は地獄だろうが、素人には趣味のお稽古は楽しみだと思ふ、が、自分たちの場合はどちらとするべきか……と自問する。

自分は清元を稽古しているが、「一言でもプロと同じ声を出したい」と言ったら「一生かゝっても無理」と言われたことや、「清元というのは聞く人を酔わせるものだが、先生の清元は自分で酔っている」と言われたことなどを例に、しかしそれが素人の芸の一番いゝところでは……と自答して、「上手下手というより、本人が楽しんでいるかを見ていただきたい」と語る。



一、小唄『日吉さん』『大川端』
前年、第六十回を迎えた記念すべき邦楽祭の開幕を初参加で飾った村中定幸先生（外科／川口市）が、今回も井上恵美竜師の三味線に乗って序幕を勤める。替手は佐藤一枝師。



『日吉さん』は「山王様」の御祭
札の賑わいをおうらかに、おんヤ
ーリョウ」と結ぶ頭の音頭も威勢
よく。続いて新派の『仮名屋小梅』
や『明治一代女』で知られる花井お梅
の箱屋殺しの一件を唄う『大川端』は、
お女心のつきつめた 思案のほかの



無分別」な成り行きから、とどろく大川
端へ流す浮名え」と、月の光を浴びて
佇むお梅の姿を彷彿とさせる。

二、小唄『心でとめて』『夜桜や』
善平朝昭先生（春日豊七 崑裕師こと、
内科／台東区）は、春日やよき崑裕師の

糸、春日やよき崑裕美師の替手で、廓の
内外を描く対照的な二題。

「心でとめて帰す夜は 可愛お方
のためになると 泣いて別れて」
と、苦界のおんなの真情を唄う『心で
とめて』の切なき辛さから一転、へと
ぼけしやんすな 芽吹き柳が風にも
まれて ふうわりふわりと「夜桜見
物のぞめき客を「浮かれ鴉」になぞ
らえた『夜桜や』の洒脱さ。いまはむ
かしの江戸の時代に思いを馳せて、
真正面から取り組まれている。

三、謡（喜多流）『隅田川』
ひとあきびと
人商人に攫われた我が子の行方を
尋ねてはるく都から東国の隅田川

の渡しまで来た母(班女の前)と渡し守との対話を聞かせてくれるのは、鈴木浩之先生(外科／練馬区)と平野宏先生(外科／練馬区)。

「いざ言問わん都鳥」と在原業平の古歌を引いて、「沖の鷗」に事寄せて狂う母。その悲しみを一歩引いて



描く深みが、聞く者の胸に迫って来る。へ乗せさせ給え 渡し守」と頼む母は、やがて明らかになる悲劇をまだ知らない。こゝでは班女の前が船に乗ることで、小さいながらもひとつの救いを聞くようだ。

四、長唄『鞍馬山』

まだ牛若丸と呼ばれていた源義経が「平家打倒を心に誓い、夜な―鞍馬山に棲む天狗を相手に剣道修行に励む姿を描いています。牛若丸の一生懸命修行する姿が少しでも想像できるように、一生懸命演奏します」と語る友田和子先生(眼科／台東区)は、杵屋勝くに緒師ほかと三味線で出演。



杵屋勝国毅師の上調子。唄は松永忠次郎師ほか。囃子入り。
「それ月も鞍馬の影疎く」からへ跡を晦まし失せにけり」まで、大薩摩を多用した派手やかなこの曲を、たつぷりとした唄に負けることなく、終始丁寧でいながら力強く大きく聞

かせる三味線の音色が、観客を堪能させた。

五、小唄『青々と』『笠森おせん』

『並木駒形』

山崎薫先生(春日豊七・並木裕こと、小児科／台東区)の唄。春日やよ・並木裕師の糸。春日やよ・並木裕美師の替手。「今年もまたく女房殿に無理やりに出演させられまして、稽古不足でお聞き苦しいと思いますが、江戸三大美人の一人『笠森おせん』。可愛く唄えれば、と思っております」と山崎先生。『青々と』『いつも松葉のふたり連れ』をへ末も栄えて高砂の変わらぬ色や春の風」とめでたく唄い納め、



『笠森おせん』でへ春信描く一枚絵をしっとり『可愛く』唄ったあととは、『並木駒形』を華やかに、明るく。

「九十三歳でいまなお現役でお座敷を勤める芸者、浅草ゆう子こと春日やよ・並木裕師匠」の糸の懐の深さに包まれて。

六、長唄『柳橋』

山崎律子先生(杵屋勝くに子こと、皮膚科／台東区)は、松永忠次郎師ほかとの唄で、三味線は杵屋勝国師ほか。蔭囃子。

「よき時代の柳橋の四季の風情、春は隅田川のお花見、口説きはしつとり、芸者の心意気を清元調に……」

「平成九年十一月に、澤村藤十郎丈により、歌舞伎座で初演されました」というこの曲は、杵屋勝国師の作曲。『藤十郎の会』で上演されたものだったか……そういえば、いまは舞台から遠ざかっている紀伊國屋(澤村藤十郎丈)の仇な芸者姿を拝見した

記憶が蘇る。

山崎先生の艶のある声が響き、この曲に醸された隅田川の四季折々の風情が心地よく届いて来た。



七、義太夫『仮名手本忠臣蔵・裏門の段』

「初めて医家芸術邦楽祭に参加いたします」「義太夫を習い始めて一年ですが、このような情景を少しでも語ることができればと思っています」という嵐裕治先生（耳鼻咽喉科／調



布市）の語りで、竹本土佐恵師の三味線が暖かくリードする。『仮名手本忠臣蔵』の三段目、歌舞伎（東京式の演出）では清元の舞踊幕『落人』によって代用されることが多い一段。

大きく声を出して、息を詰め、上方弁に挑み、勘平とお軽を語り分けて、と、初心を大切にした語りである。伴内のチャリも健闘。力強い段切れめでをしつかり、懸命に語り終えた。

八、舞踊・常磐津『二つ面子守』

「邦楽祭に出演させていたぐくのも今回で三回目となりました」という小島杏里先生（尾上杏里こと、歯科／港区）が「今年挑戦させていたぐく」



演目は、常盤津の『三つ面子守』。尾上菊方師が後見を勤める。

「子どもの子守が赤子に見せるという設定で、三種類の面を被り替えながら、三役を踊り分ける趣向の曲です」「子守の他に三人のキャラクターが出て来ますので、踊り分けるこ

とがとても大変ですが、少ない時間の中で練習を続けて来ました。楽しんでいただければと思います」という抱負の通り、役々をひとつくきっぱりと踊り分けて、観客を楽しませた。

九、長唄『綱館』

中島信子先生(眼科／中央区)は、東音新井康子師ほかと三味線を披露。東音大森多津子師ほかの唄。囃子入り。

全員女性奏者で描く一幕は、中島先生の年季の入った三味線が冴える。伯母(実は鬼女の舞う山めぐりの枯れた色合いの面白さは、まさに至難

の件りを見事に具現する。やがてゝ即ちこれにと唐櫃の蓋うち開けて伯母の前にぞ直しける」と緊迫した時間から、ゝ次第ゝに面色変わり」と櫃の中の腕を掴んでゝ鬼神となつて飛び上がり」と本性を顕わす展開を鳴物入りでドラマチックに聞かせ



て、息つく暇なく締め括った。

十、清元『雁金』

太田怜先生（循環器科／世田谷区）

は清元佐季太夫師と清元を語る。三味線は清元延志佐師、上調子を清元延志佐典師。

「いかにも清元らしいという発声」ができるかどうか、「色っぽいところ」を「それらしく表現できないのが残念です」と謙遜されながら、「それらしい文句が一語でもお耳に入ったら、そのつもりで聴いていただけたら望外の幸せです」と述べる。

当時（初演時）としての新しさを湛えつつ、いまとなつてはそこに古め

かしさゝえ感じられる「散切もの」の複雑な味わいが、太田先生の深みのある語りを得て、魅力的な趣きとなつて観客の耳に残った。太田先生は貴重な語り手といえよう。



十一、小唄『落人の（常磐津入り）』
『お互いに』

山田新太郎先生（整形外科／練馬

区）の唄。三味線は伊吹清寿師。

「追い詰められた忠兵衛と梅川を、哀愁切々と唄い上げる」『落人の』はへあたくめられつ あたくめつ」ふ



たりの科白も芝居気分豊かに演じる。もう一曲の『お互いに』へ死ぬの生きるの言った仲は、「遠くはなつてもまだ未練たつぷりの男女の仲」を、どこか軽妙に。ともに男女の心の機微^{こま}、想いを募らせる情愛を濃やかに描き出している。

十二、舞踊・長唄『連獅子』

「やりたいことは何でもやる主義の私がやり残していることのひとつに、石橋ものゝ踊りがありましたので」という大川尚美先生（尾上菊尚こと、小児科／横浜市）の『連獅子』。「私のキャラクターとしては、七十になつても八十になつても、やはり

親獅子は仁^{にん}に合^あわず、子獅子しかできないので、「やるならいまでしょ」と、思い立ちました」と述べ、演奏は唄を杵屋五功次師ほか、三味線を杵屋栄八郎師ほか。囃子入り。親獅子の尾上菊方師は大川先生より十八歳年下で、親子逆転連獅子で



すが」と聞くが、親の風格と子のあどけなさが、うまく表現されていた。へまた突き落とし 突き落とされ」の見せ場も果敢に健闘。親子の情が通い、心地よい舞台となつた。

十三、長唄『松の翁』

今回も切を勤めるのは前村八重子先生（杵屋和重二こと。小児科／東村山市）で、芳村伊知蔵師ほかの唄、前村先生は杵屋栄敏郎師ほかと、お得意の三味線を披露する。囃子入り。

ことし九十歳という前村先生は、小柄なその身体から大きな輝きを発するかのようで、刻明な音色を紡ぎ出す。へ四季の眺め」も鮮やかに過ぎ



ず地味に過ぎず、まさにへ世にも佳境の閑楽と 心残して帰るさの土産』となった、この日の演奏。

今回はいわゆる『祝儀曲』と呼ばれる一曲だが、毎回披露されて来た大曲の数々同様、孤高の風格と得難い風趣が、曲の品位をさらに高めて

いる。艶やかで芯の通った演奏を聴き終えて、会場は大きな拍手に包まれた。

正午に開幕して午後五時。つづがなく第六十一回の《邦楽祭》が終了した。

次回、第六十二回《邦楽祭》は平成二十九年十一月二十三日（木曜日・勤労感謝の日）、同じくこゝ日本橋三越劇場での開催が予定されている。

第六十二回《邦楽祭》

出演者募集のお知らせ

今年も11月に邦楽祭を予定しております。まだ演目に余裕がありますので、ご参加希望の先生はどうぞお知らせ下さい。三越劇場の舞台は大変美しく、心地のよい舞台であると出演者の皆様から伺っております。年に一度の大舞台、一緒にいかがでしょう。

ご連絡お待ちしております。

邦楽祭事務局 二村 典子

kokkedai@gmail.com

080-5097-0951

医家随想



病人膏肓

豊泉 清

漢字は表意文字だから、個々の文字に意味があり、同時に発音、つまり読み方があり、更に「形」という要素もある。そこで見た目の「形」だけに絞って、漢字に関するささやかな考察を試みてみた。

◆ 同じ字画を二つ書く漢字がある。横に並べる例

林 朋 竹 弱 競 羽 双 比 赫 棘 兢
縦に重なる例

炎 昌 多 圭 棗

棘(とげ)を縦に重ねると棗(なつめ)になる。兢(きよう)は「戦々兢々」という四字熟語の中で使われている。兢は常用漢字でないために、現在は「戦々恐々」と表記している。

次に同じ字画を三つ書く漢字を挙げてみよう。

品 森 晶 轟 姦 曩 蟲

産毛を意味する「毳」や豪放磊落の「磊」や曩眞の「曩」や、直や耳を三つ書く「聾」「聵」という字も習ったことがある。青森県と秋田県を結ぶ

「五能線に屬木」と書いて「どじろき」と読む駅名がある。「屬」という字を書く駅名は全国でここ一カ所だけである。パソコンを操作していると、火

金、犬、刀、力をそれぞれ三つ書く焱、鑫、森、刃、刃など、今まで見たことのない珍妙な漢字も画面に表示できる。

余談だが、旧字体の澁や攝や蕊や疊は、止や耳や心や田を三つ書いたが、現在は画数を極端に減らした澁や摂や蕊や疊という略字が使われている。但し囁(ささや)くは今でも耳を三つ書いている。

余談だがカタカナのヌのような字画を四つ組み合わせた綴、噉、噉、鋳という漢字を習ったことがある。パソコンを操作していると、単独の「𪛗」という漢字も表示できる。本稿のネタ集めをしながら、同じ字画を四つ書く漢字を初めて目にした。

◆ 私は旧字体も一通りは習ったから、手ではすらすら書けないが、見れば何とか読める。現在は一般的に略字体だけが使われており、旧字体を目

にする機会は極端に減った。例えば體(体)、缺(欠)、灯(燈)、證(証)、獨(独)、條(条)、處(処)、聲(声)、廳(庁)、寶(宝)、壽(寿)、應(応)、舊(旧)、臺(台)、灣(灣)などの旧字体は目にする機会がほとんどない。台湾では国名を旧字体で「臺灣」と表記している。昔は領収書に金額を記入する際に、一や二の代わりに壹や貳という漢字を書いた。壹と貳の旧字体は壹と貳だが、やはり目にする機会はほとんどない。

お名前を旧字体で書く方が結構いらつしやる。瀧濱、澤、櫻、廣、邊、齋などは今でもよく目にする機会があり、お手紙を差し上げる際に手で書く機会もある。

駅、沢、沢、沢、昔は驛、澤、釋、譯のように、尺の部分で「𠄎」と書いた。宰丸(こうがんの)の「宰」は𠄎の上にカタカナのノのような一面を加える。ほんの僅かな違いで、うっかり見

逃しそうだが「𠄎」と「宰」は全く異なる漢字である。

略字体だけを教わり、旧字体を学んだことがない世代が増えると、国語の将来はどうなるのだろうか。昔の書物や文献が読みこなせなくなり、文化の伝統が後世に伝わらないと思われる。𠄎や稱號や繪畫など、旧字体で書く方が重厚で風格があると評価すると、時代錯誤だと笑われるだろうか。

旧字体に関して興味があるのは代用漢字という話題である。漢字本来の意味を無視して、旧字体と同じ発音の常用漢字で代用している言葉がある。例えば双書、台頭、名譽棄損、波乱万丈などである。一定の形式に従って継続的に出版される書物を「叢書」というが、現在は「双書」と表記するから、二冊の本かと文句を言いたくなる。擡頭(たいとう)は頭を擡(もた)げるという意味だが、台

頭(頭の白)と書くことかと、けちを付けたくなる。また名譽棄損を昔は名譽「毀」損と書いた。本来は「こわして」「そこねる」という意味だが「棄損」と書くこと「すてて」「そこねる」という妙な意味になってしまふ。波瀾万丈の「瀾」は大波という意味だが、波乱(波が乱れる)と書いては意味をなさない。代用漢字は困り者だと個人的に感じている。

◆極めてよく似ているために間違え易い漢字がある。学生時代に末と未、土と土、鳥と鳥、瓜と爪、氷と氷、瓦と互、追と迫、徐と除、幣と弊、捧と俸、齊と齋、侮と悔、蜜と密、栗と栗、綱と網、萩と荻、勸と勘、貧と貪、遣と遺、旋と施、妨と防、擬と凝、減と滅、却と卸、戴と載、損と損、衝と衝、微と徴などをよく間違えて国語の試験で減点された。小学生時代に土と士や末と未の横棒を上下ほぼ同じ長

さに書き、教師に「区別できない」と注意されたこともある。また拾(ひろ)うと捨(すて)るや、到(いた)る致(いたす)や、崇(あがめる)と崇(た)たるや、暫(しばらく)と漸(ようやく)を、最初の頃は逆に覚えてしまったようである。祖、粗、阻、租や、挟、峡、狭や、慕、募、墓、暮や、磨、摩、魔などは、今でもパソコンの漢字変換キーを押した間違えることがある。昼の旧字体の「晝」と、画の旧字体の「晝」も酷似している。元帥の「帥」と「師」や、洒落の「洒」と「酒」は短い横棒の有無だけの違いで極めて紛らわしい。治安や治世の「治」はシ(さんずい)を書き、冶金や陶冶の「治」はリ(にすい)を書く。仏教の黄檗(おうばく)宗の「槩」は「壁」や「壁」と見誤り易い。

巳と己も紛らわしい例としてよく引用される。最後の一面をどこから書き始めるかで、三通りの異なる

つた漢字になる。戊(ほこづくり)という部首がある。戊戌(つちのえ・いぬ)という干支の名称があり、音読みは「ぼじゆつ」である。短い横棒を斜め右下に向けて書く「戊」という字もある。戊、戌、戌も巳、己に負けず劣らず紛らわしい漢字の横綱格である。

表題の「病人膏肓」を、一般的には病(こうもつ)に入ると読んでいる。膏肓は鍼灸の「つぼ」の名称で、正しくは「こうこう」と読む。亡の下に月を書く肓(こう)を、目を書く盲(もう)と見誤つたための誤読と思われる。一般社会に定着し、辞書にも掲載されると、もはや誤読とは呼べなくなる。鍼灸界では正しく膏肓(こうこう)と呼んでいる。

◆漢字には部首がある。漢和辞典は全ての漢字を部首で分類している。峰の山の部首を上を書く「峯」という

字がある。部首の位置を変えても同じ意味である。その他に略(りやく)、崖(がき)と岬(さか)と岬、松と杳、鷺(ろ)と鵝(が)と羣(ぐん)、隣(りん)などの例がある。木と公を縦に重ねた「杳」も松である。ガチョウという鳥を意味する漢字には、我を上を書く「鷺」と、左に書く「鵝」という字体がある。君と羊を縦に重ねた「羣」が正字で、群馬県の「群」は俗字である。また日頃見慣れている「隣」が俗字で、「鄰」が正字である。余談だが、免に点を打つた「兔」がウサギの正字で、日本で使われている「兎」は俗字だそうである。

字体が正字と全く異なる俗字もある。涙(涙)、杯(盃)、驅(駈)、総(惣)、野(埜)、麓(麓)、梅(榎)、杉(杉)、靴(靴)などの例がある。禾(のぎへん)に亀と書いて、秋を意味する「穠」という字もある。

パソコンには学校で教わらなかった漢字が数千字も入力しており、キ

の操作一つで簡単に画面に表示できる。一つの点や短い棒の有無だけでも全く異なる漢字になるから、正しい漢字を選ぶためには、僅かな相違が瞬時に識別できる目の訓練が必要だと、パソコンを操作しながら感じている。

物がなかった時代

穂苅 正臣

私の小学生(国民学校)時代は、太平洋戦争(大東亜戦争)の真っ只中であつた。新潟県の出舎町で育つたが、僅かな食べ物で、ただ生きること、そして、戦争に勝つことであつた。

その頃、国の「スローガン」は、「欲しがりません、勝つまでは」であり、欲しいものがあつても辛抱し、不足があつても苦しいとは言わなかつた。ただその努力がかなつた時は喜びが

増幅されるのであつた

そんな子供の頃に、「これはおいしい」と感激した食事の想い出がある。小学二年の秋のこと、小学生の「勤労奉仕」で、町外れにある農家の稲刈りの手伝いに朝から出かけた。まだ身体も小さく大した仕事も出来なかつたが、リヤカー一杯に積まれた稲束を運ぶ手伝いをしたのを記憶している。

午前中の仕事が終わる、その農家の家族と一緒に囲炉裏を囲んで昼ごはんをご馳走になつた。茶碗に盛られたのは、自分の家では決して食べることが出来なかつた真っ白なご飯と、さつまいもが沢山入つた味噌汁であつた。

今どきなら粗末な食事の類だろうが、その頃のわが家では昼も夜も食事は決まつて「おかゆ」であり、ゆでたジャガイモに塩をつけて食べていた。「お米」はほんの少しの配給米で

あつた。ときにはおふくろに連れられて町外れの農家を訪れ、おふくろの着物などとの交換にお米をわけて貰つたりしていた。

実は、医者であつた父親が何年も兵隊に行つていて収入がなく、米どころの新潟にいてさえ白いご飯を食べることが難しかつたのである。あの農家で食べた白いご飯の感激は七十年余り過ぎた今でも思い出す。

その頃、我が家の茶箆筒の奥に何年もひっそりとしまわっていた黄色いラベルの「リプトンの紅茶」があつた。大切な宝物であるかのように長らく保存されており、家族の誰もが飲むとしなかつた。それはわが家にある一缶の宝物であり、その紅茶を飲みたいとおふくろに言う者はいなかつた。いつの日かおいしいであろう紅茶を飲めることを夢見て我慢していたのかもしれない。今思うに何年もしまわれていた紅茶であるか

ら多分おいしくはなかったであろう。自分自身も不思議な子供だった、と言える。家に紅茶があることに幸せを感じ、その匂いだけで満足していたのだから。

いまでは毎日でも白く光った「コシヒカリ」のご飯を食べ、「ダージリン」の紅茶も飲むこともできる。ただ、同じ白いご飯や紅茶をとっても、あの貧しかった子供の頃に味わったときのような感激はない。所詮、おいしいとか幸せとかの感激はその人の置かれた環境によつて違つてくる。

最近ある集まりで、私より一つ年上の友人と話をした。彼が戦後に過ごした少年時代の話であつた。今でも彼は、「濃い緑色のもの」を見ると、戦後のあるべき事を思い出すというのである。

その頃は、どここの家にも「缶詰」がなくて困つていた。戦時中、米軍が彼の住んでいた横浜を空襲した際、彼

の家では「不発焼夷弾」を見つけて、その尾の部分に付いていた緑の硬い布地を取り、何回もたたいて柔らかくし、包帯として使つたのだそうだ。

あの戦争から七十年余りという長い歳月が過ぎた今、物がなかった時代の友人の苦労話を聞きながら、農家でごちそうになつた白いご飯のことを想い出した。食べ物がなくてひもじい中でも楽しみや希望があつたのだ。

終戦によつて激しく世の中が動いた。今は、食べ物も豊富にあり日常生活で困ることはない。しかし、現代の若者には明日への希望がなく、どのように生きるかさえも分からぬ時代になつたように思えてならない。

チエーホフを読む（12）

泥沼

藤倉 一郎

一八八六年十月、チューホフは「ノヴォオエ・ヴレーミヤ」にかなり長い作品をのせた。

「純自の将校用軍服を優美に着こなして、中尉は馬を乗り入れた。中尉はいとこの手形を持って、この家の女主人に返済を求めてやってきたのだが、話が進まず、ユダヤ女のサンナはジャスミンの香りを放散させて中尉を自分の書齋に案内した。そこでもよくしゃべつた。中尉は手形をポケットから出してデスクの上に置いた。それをすかさずサンナはつかんで手品のようにどこかへ隠してしまつた。とりもどそうと中尉がその手をつかんだが、もつれるばっか

りでいくら格闘しても目的をはたせなかった。スサンナはしやべりまくり格闘で興奮しきつた中尉は微笑をたたえているスサンナの人もなげな顔や、食べている口や、苦しげに息づいている胸を眺めている内に、いつそう大胆で無作法になってきた。発作的にユダヤ娘の隣に腰を下ろすと手形の事も忘れてウオツカを飲み始めた。

いとこのクリュコフはいらいらしながら待っていたが、五時間たつても中尉は帰ってこなかった。中尉は翌朝になってやっと帰ってきた。スサンナの妖艶な仕草に中尉は完全にとりこにされてしまったのである。

「実はひよんなことになってしまったね」中尉は手形の一件を話してきかせた。こんなことにしておくわけにいかないと、クリュコフは「自分が行って、手形を取り戻してくる」といって、出かけたが彼もまたスサン

ナにひきとめられ、彼女の妖しげな雰囲気は圧倒されて、夜を明かして翌朝自宅へ帰った。中尉とまったくおなじ羽目に陥ったのである。

一週間たつた頃中尉は退屈し、休暇はなくなるし、フィアンセも気になるので、クリュコフに馬を貸してくれと頼んだ。クリュコフは中尉に五十ルーブルを引出しから出して渡し「チャンと軍隊に帰れ」と言つて送り出した。

クリュコフは家庭の沈滞した空気のなかにいると退屈してきた。スサンナを訪ねてみようかとかんがえ、それも気晴らしにいいと思つた。馬を用意してスサンナを訪ねた。そこには大勢の地主や知人がいて談笑していた。みな知り合いの人たちだったので、素知らぬ顔で通りすぎた。奥に行くと中尉がいて友人と何かしゃべっていた。クリュコフはびつくりして、スサンナの家を後にして帰宅

した。

短縮小説「泥沼」の抜き刷りをチェーホフはキセリョーフ夫人に送った。彼女は模索の最中にあつたチェーホフに強い衝撃を与えた。「泥沼」は妖気と媚態で情欲を誘つて近在の地主たちをたぶらかすユダヤ女スサンナの物語である。こうした色仕掛けの奸計の物語に品性高潔なキセリョーフ夫人が反発を感じたのは無理がなかった。

「じつによくかけていて、あれを読んだ男性は自分が低級な本能を満足させるスサンナのような女に出会わなかったことを残念に思うでしょう。女性たちは女性たちで、彼女に羨望を感じ、世間一般は面白くあなたの物語を読んで「チェーホフというひとは何と鋭い作家だろう」というでしょう。あなたほどの作家、つまり神から十分な才能を授かつた作家が、

わたしに堆肥だけしか見せてくれないのは残念だ。堆肥の悪臭のなかに真珠を探し出す作家でなければなりません。あなたは近眼ではないのですから、堆肥のなかに真珠を見つけれはるはずで。それなのになぜ堆肥だけを？もし私が編集者だったら、あなたのためにもあんな作品は破り棄てたでしょう。」

キセリヨーワ夫人の批評は過去の問題と同時に未来の問題も含んでいた。それは素朴ではあるが、永遠の美学の難題を抱えていたのである。

「善人たち」、「旅中」を新時代に書いた後チエーホフは一八八七年一月彼女に長文の手紙を書いた。

「世界がろくでなしの男女でいっぱいなのは真実です。人間の本性は不完全であり、それゆえこの地上に正しい人間だけをみるのは奇妙なはずです。ろくでなしの山の中から真珠を掘り当てるのが文学の義務であ

ると考えることは、文学そのものを否定することです。芸術的文学とは、それが実際あるがままの人生を描くからこそ芸術的といえるのです。その使命は無条件かつ誠実な真実です。風景画家レヴィタンに汚い樹皮や朽ち葉をいれずに樹木を描かせるのと同様に文学にとつては致命的です。化学者にとつては、この地上に不潔なものは何もありません。文学者も化学者同様客観的でなければなりません。邪悪な情熱も善良な情熱も同様に人生の本質なのです。」

このように真面目にキセリヨーワ夫人に主張を書き送った。チエーホフは文壇からは評価が高まる一方、かなりの批判も出ていたので葛藤していたのである。それで「旅中」をかいたのだが、この作品に対してキセリヨーワ夫人は、これこそチエーホフらしい素敵な作品であると賛美している。

チエーホフはキセリヨーワ家の離れに住んで文学への道を歩み始めたので、夫人から受けた感化が大きかっただけに、彼女から厳しい評価を受けたのはかなりショックだった。彼女はメンデルスゾーンとも親しく、彼との結婚話もあったほどの文化人だったので、チエーホフの貧しい成長期を豊にするのに大きく影響している。

当時チエーホフは文壇でも清新な文学的才能を賞賛されはじめていたが、自分の今までの新聞作家としての生き方に反省をしていた時期だった、キセリヨーワ夫人の意見は彼の心を揺さぶったのである。これを機にチエーホフは本格的文学に目覚めていくのである。

「ピースアクション イン ヒロシマ」に参加して

浜名 新

2016年5月26・27日G7伊勢志摩サミットの帰り、27日アメリカ大統領、オバマさんがヒロシマを訪問され、平和記念公園で献花し、スピーチをされました。TV放映され、多くの人は固唾を吞んで映像に見入ったに違いない。

そして、平和資料館を見学、4羽の「折鶴」のうち、2羽を出迎えてくれた被爆3世で中3花岡さん、小6の矢野さんへ手渡し、2羽を自分のスピーチ原稿の脇にそっと置いたそうです。

自ら折った「折り鶴」にこめたオバマ大統領の気持ちとは？ 被爆少女「佐々木禎子(サダコ)」ちゃんの「折鶴」の経緯をしっかりと把握し、あやか

つたものであったに違いない。

「サダコ」チャンは、爆心地で被爆しながら奇跡的に助かったものの、12年後、白血病を併発し、しだいに病が悪くなる恐怖との戦いを、「鶴を折る」ことにより、良くなる希望を強く持ち続け、根の続く限り、折り続け、力尽き、亡くなったそうです。

大統領はそうした「折鶴」の意味と経緯を踏まえ、広島市の(被爆)市民へ、悼みとして、「折り鶴」に託されたのではないかと、言われております。

大統領は演説で、「私自身の国と同様、核を保有する国々は、恐怖の論理から逃れ、核兵器のない世界を追求する勇氣を持たなければならぬ」と訴えました。そして、「いつか証言する被爆者たちの声が聞けなくなる」とも発言されました。

何しろ、世界的には、原爆は15000発も実在し、使用されれば、この美しい地球は破壊され尽くされてし

まいます。好戦的な人がいる限り、戦争は永久に無くならないでしょうから、せめてこれ以上「原爆を造らない」、これからも戦争で「原爆を使わない」ことで、核保有国で意見の一致をしていただきたいと切望します。

今回、原爆を投下した米国のオバマ大統領広島訪問がきっかけで、8月広島訪問の機会があればと、東都生協の会員である妻に相談すると、生協主催のイベントがあるとのこと。参加申し込むと当選、8月4日・5日・6日の2泊3日、「ピースアクション」に妻と参加しました。

実は昨年9月産地訪問として岩手の水沢江刺で、稲作の農家を訪問し、鋸カマによる稲束の手刈り体験に参加。手刈りした稲束を、美味しいお米にするため、交互に棒架け(ほんよう)し、天日干しするのです。ピーマン農家の訪問、ひめかゆ温泉泊。翌日・胆沢(いさわ)ダム・田んぼアートなど

奥州市観光は盛りだくさんで、楽しかったです。

イベント期間中、広島市のお天気、毎日暑かったですね。原爆廃絶・平和祈念・被爆地訪問の熱気はすごかったです。セミ時雨は顕在でした。

宿はホテル法華クラブ広島(袋町)。スケジュールに沿い、イベントごとに印象、短評をすることにしました。ホテルのチェックインの時刻は午後3時。昼飯はホテル1階の「ランチバイキング1500円」、それなりの味と量・果物・デザート・飲み物、満足しました。

空き時間を利用し、1人で原爆ドームを見学。保存に莫大なコストがかかるため、浄財でまかない、すでに3回目の補修を済ませているそうで、広島原爆の遺産の象徴として生き残り、すぐ近くで見ることができました。

15時から16時30分:「入市被爆

の新聞記者が伝えたかった被爆の実相」元中国新聞の記者、浅野温生氏の語り:当時、広島2中生であった。1・2年生は「建物疎開作業」に、3・4・5年生は「軍事工場」などに通年動員され、たまたま8月6日1年生が「建物疎開作業」を担当し、322人が犠牲になったそう。氏は母の郷里である上浦刈島(現呉市)へ行く途中で、小用港に停泊していた船におり、広島南区のキノコ雲を見ていた。島に着くと「広島が全滅した」と。翌日村長だった祖父らと広島に引き返すと、爆心地から2・3キロ離れた自宅は大破し、家族は奇跡的に無事であった。広島の惨状を目の当たりにした。

友人の濱田裕君が比治山の壕にいるとの知らせで、心配で何うと、彼は顔の半分が焼け爛れ、膿だらけの頸に包帯が巻かれ、「包帯を外してくれ」と訴えていたそう。[裕ちゃん!]

と呼びかけても返事は無く、その数時間後、祐君の母親と駆けつけると、母親は「裕!」と呼びかけ、しっかりと抱きしめた。「熱かったろう」と母親はズダ袋からミカン缶詰を取り出し、ミカンを口へ押し流していたそう。それから、裕君は、「君も食べるよ」と勧めてくれたが、自分は食べる勇気が無かった。

コメント、「缶詰のミカンのオレンジを見るとたまらなくなりました(トウマとなつて・)。被爆者の思いを追いかけるようになり、社会部の記者になりました」

ついで碑めぐりは「平和公園コース」でした。ここは本川(太田川)と元安川に挟まれた中州で、原爆死別者慰霊碑・アーチ・平和の池・平和の灯火・原爆の子の像、離れた原爆ドームが、直線的に連なつて見られ、びっくりしました。意図的に、合理的に設計・造成されたものだと思測、感心し

ました。

女性の方が説明。被爆アオギリ、原爆死没者慰霊碑、原爆の子の像、韓国人原爆犠牲者慰霊碑、原爆供養塔、原爆ドーム。

やはり印象に残ったのは、原爆の子像、「サダコ像」でした。その脇に屋根付きの4―5棟の千羽鶴の吊るし部屋があり、全国から寄せられた「千羽鶴」の束がそこそ所狭しと、幾重に重なり吊るされていました。

私は生協さんから手渡された「千羽鶴」を2束吊るさせていた。だきました。像の石碑には「これはぼくらの叫びです。これは私たちの祈りです。世界に平和を築くための」

夕飯をどこにするか、私は風邪がみで、段々ひどくなるような気配で、ホテルに隣接した「すし」処に入ると、2つ空席があり、先客6人の男性客が刺身や焼き魚を肴に、ビールやイモ焼酎で大変盛り上がっていました。

仲居に聞くとお品書きはないのことでびつくり。私はおまかせ寿司、熟燗、妻はサヨリ・ハモ・アナゴなど、当方はお茶のお代わりで、ガマンしました。

金曜日の午前、「被爆柳・本川小学校コース」でした。碑めぐりを開始する空き時間を使って、平和を祈念して「平和の鐘」を「ゴーン」とひと突きました。いくつかの碑蹟を巡りましたが、あまり印象に残っておりません。暑さでしょうか。

昼休み、疲れて、バルク広島のフロアでひと休み、そごうデパートで軽く昼食を摂りました。

午後「虹のひろば」のイベントが印象深く、拝聴・見学させていただきました。松井市長の挨拶、「核兵器は非人道の極みであり、絶対悪」で、核兵器の廃絶と世界の恒久平和実現に向け、ともに行動しましょう。世界的に、都市連携し「核兵器廃絶」に向

け取り組んでいる」そうです。岩佐幹三さんが「日本被団協のあゆみ、―再び被爆者をつくらないために」と題して講演されました。被爆者でいくつかの病気を克服された元大学教授で、80歳以上になり、頑張っています。頭が下ります。

強く感銘を受けたのは以下の3高校生が出品した作品でした。

*市立基町高校の被爆者の証言を元に表現した油彩画でした。火災に迫られた、何かにはさまれて動くことも出来ない、救助を求める少女の表情がすばらしかったです。

*県立福山工業高校の被爆者の証言からCGを活用して、当時の状況と現在を比較させるものでした。映像技術の現状は、「すごいことになっているな」と驚いた次第です。

*近畿大附属広島高校、中学校東広島校による、爪楊枝85000本を活用した「原爆ドーム」の作成でし

た。学生たちのクリエイティブな活動の今後更なる発展を期待しました。

夜の部までの時間を利用して、広島城を駆け足で見学。広い敷地でした。初代藩主毛利輝元↓福島正則↓浅野長晟（以降浅野家が藩主として明治の廃藩置県まで続いたと。途中に遭遇した、広島市民病院の1階通路を見学しました。

夜の部、YMCA本館で18時から20時まで、生協主催の全体会議に6生協60人が参加しました。生協主催の連綿と続いた「ピースアクション」と知りました。

2人の被爆者の語りを拝聴。

綿崎被爆者の語りのあと、女性の生協会員が、「今幸せですか」と尋ねました。彼女は、「はい、幸せです。結婚し2人の子供、孫が5人います。10歳で被爆し、逃げる途中中家の下敷きになり、つるはしとスコップで助け出されました。原爆で妹と弟を亡

くしました。貧しいので、14歳で働きにでました。50歳代になって通信制の高校を卒業しました。原爆でなくなった妹の本を出版しました。原爆病にめげず、生き残ることが出来、広島復興、世間の発展を目の当たりにして、現在まで生きていることの幸せを感じております」

男性の瀧本被爆者の語り、「夏休みで郷里の山口県萩野町にいました。当時15歳で広島の幼年学校に在籍。8月7日正午に帰る予定でした。仲間2人と一緒でした。1日繰上げて郷里を後にし、山陽本線から日斐（コイ）駅で下車（先に進めない）。広島駅の先の芸備線に乗る予定でした。市内は焼け野原で、死体がゴロゴロし、方角や場所がわからなくなっていました。通常爆弾なら地面に大きな穴が掘られるはずですが、どこを見てもありません。きつと「新型爆弾」だろう、とうわさしていました。

その日、東蟹島駅の先の土手で野宿し、矢賀駅に行きました。結核になりましたが、今、元気です」

最後に、生協ごとに、被爆者の方と記念写真を撮りました。

8月6日は広島平和記念式典の日でした。6時、朝食バイキング。徒歩で式場へ、大型の、沢山のテントが設営され、1万席が用意されたそうです。リーダーの機転で座れてラッキーでした。テントの外側の骨格部位のパイプから、ミスト（霧）が噴霧され、暑さ対策でしょう。

「広島市原爆死没者慰霊並びに平和祈念式」に参列した。新聞報道では5万人が参加したと。8時開式、原爆死没者名簿奉納（広島市長・遺族代表）、↓式辞（広島市議会議長）↓献花（広島市長・広島市議会議長、遺族代表・子供代表、被爆者代表、来賓）↓8時15分黙とう・平和の鐘↓平和宣言（広島市長）↓放鳩↓平和への誓い

(子供代表) ↓挨拶(内閣総理大臣・
広島県知事・国際連合事務総長) ↓広
島平和の歌(合唱) ↓閉式、

核兵器廃絶、被爆の実相を訴え、平
和の尊さを訴え、世界の為政者は被
爆地を訪問して欲しい、と訴える内
容でした。一般参加者の1人として、
献花し、戦没者を悼み、平和を祈念し
ました。

最期のイベントは、折免(おりめん)
しげるくんの「まつ黒なおべんと
う」..劇団あじさいによる2人劇でし
た。広島2中に進学したしげるくん
は、母親しげこさんが作ってくれた
「おべんと」を携え、建物疎開の仕
事中に原爆に遭遇し、そのまま亡く
なりました。弁当箱は曲がり、中身は
まつ黒になっていました。しげるく
んが新しく開墾した畑で収穫された
野菜のおかずを、しげこさんは息子
に食べてもらうために、用意してく
れていたのです。母親の落胆は大変

なものでしょう。黒い弁当箱は平和
資料館に展示されています。

その後、平野貞男さんの被爆体験
談は、「まず太平洋戦争の流れをおさ
らい。爆心地から2・2 km離れた県立
師範学校の校庭で被爆し、全身のや
けどを受傷し、治療。しかし、運悪く
ケロイドを併発し、今でも皮膚が引
きつり、辛い思いをしています」

帰りの新幹線出発までの待ち時間
を利用して、「平和記念資料館」を駆
け足で見学。外人・日本人で大変混雑
しておりました。外国人は1・5倍と
増え、オバマ効果とか。原爆に関する
資料が沢山陳列され、重要な見学
場所と思えました。入館料200円
でした。

被爆体験の「語り」をされた方々は
80歳代になり、辛い体験を乗り越え、
自分の職を全うして、長生きされ、今
は「語り」で、生きがいをお持ちのよ
うに推察しました。

広島の実地に来て平和公園、平和
資料館、原爆死別者慰霊碑、アーチ、
平和の池・灯火・原爆の子像、平和の
鐘、原爆ドーム、碑蹟を見学して、原
爆の恐ろしさを目の当たりにして、
「原爆の製造禁止・使用禁止」、「平和
の維持」は絶対必要と思いました。

広島訪問は大吉でした。

夾竹桃の樹木は少なくなり、血の
色をほうふつさせる赤い花の姿が消
え、白とピンクの花のみが散見され
た。宮島参詣は果たせずじまい。市電
に行き帰り乗車(一律160円)しま
した。道路信号で「歩車分離」の標識
が運営され、道路幅が4メートルぐ
らいの狭い道路に適用されていまし
た。

(H 28、8)

木になる鶏

出来 尚史

今年は丁酉（ひのととり）。年男である。早いものだ、巡り巡って六度目の酉年がやってきた。

初めての酉年、私は十二歳。希望に胸を膨ませた。ピッカピカの中学一年生だった。次、二十四歳。就職。今に続く大切な友人を得た。三度目の酉年は三十六歳。長女が誕生し、生命が繋がっていくという厳粛な事実に感動した。その後も、四十八歳、六十歳、とわが酉年は続いた。悲しいこともあった筈なのに、頭の中は楽しい思い出一色である。不思議なことだと思ふ。七十二歳になる今年も、きつと平和で喜びの多い一年になるだろう。そんな虫のいいことを考えている。

さて「酉」と言う文字だが、これは周知のごとく動物の鳥を表すもので

はない。手元の『大字典』（講談社）には「象形、徳利の形を象る、酒は秋八月黍が成熟して醸すより、轉じて成熟の義とす」との解説がある。要するに口の細い酒壺。古くは殷代の甲骨文として登場している。その後十二支の一つとして、年月や時刻、方位を表わすのに用いられた。『大字典』の記述はこう続く、「十二支の第十位に當て、律にては南呂、月にては陰曆八月、方位にては西、時刻にては午後五時に配す。鳥に對して酉を日讀のトリといふ。干支に持ちふる故なり」十二支の起源については不明な点が多い。古くは「十二辰」といったようだ。黄道を十二分し、各領域をその位置にある星をもって表したものだ。記号（文字）に多少の変遷はあるものの、この呼称は紀元前1500年頃には既に成立していたらしい。

戦国から秦の時代には、十二辰のそれぞれに身近な動物が当てはめら

れた。人々が暦を憶えやすくするためと言われている。このころには十二辰を用いて月を表すようになってたのだ。後漢になって「干・支」という文字が使われるようになった。「十二辰」は「十二支」となり、十干・十二支を用いた記年法が確立した。

前掲のように「酉」は「黍が成熟して醸す」、すなわち酒が醸造される月、陰曆八月を指す。当時は冬至を含む月（陰曆十一月）を最初の月とし「子」を当てた。したがって八月は十番目の月。年を表記する際にもこの順に数え、「酉」は十番目の年となった。ここまではわかる。わからないのは「酉」に「トリ（鶏）」を配した理由だ。他の動物でもよさそうなものだが、何か特別の縁があるのかもしれない。真相は遙か昔の闇中である。実は私、この組み合わせが結構気に入っている。「酉」とくれば酒、「トリ」とくれば、例の串に刺さった食べ

物を思い浮かべるからだ。いやはや、突然下世話になって申し訳ない。これ愛酒家の戯言、どうかご容赦を。

調理済みの鶏も好きだが、生きている鶏はもっと好きだ。子供の頃、私の家では鶏を飼っていた。飼い主は祖母、私は助手である。「庭には二羽ニワトリがいる」というのはたわいもない語呂合わせ。うちには二羽どころか常時五、六羽の鶏がいた。夜は鶏舎で睡眠をとり、昼は庭で遊び歩く。遊びと言っては彼らに失礼かもしれない。一心不乱に地面を突っついて虫やミミズを食べていたのだから。わが家の庭はそれほど広くはない。しかし鶏が歩き回るには十分。日当たりは良好だし、暑過ぎる時には梅の木や柿の木の陰で一休みできる。安全でおまけに天然の餌も豊富。彼らにとつて理想的な環境と言えた。就学前の私は日がな一日縁側に座り、鶏を眺めて過ごした。羽の色は白

や茶色。雄鶏の中には輝くようなオレンジと赤茶色、深みのある青緑に黒い尾羽のコンビネーション、という世にも華麗な衣装をまとったものもいた。あれは特別な種類だったかもしれない、と今にして思う。

キョトンとした目、飾り物かと思っていたら微妙に揺れてそれ自体の存在を主張する鶏冠、傾げた首、音ばかり大きな羽ばたき、歩きたびに揺れる雄鶏の尾羽。どんなに気取つても鶏にはどこことなく剽軽さが漂つている。姿、形、動作、どれをとつても決して見飽きることはなかった。そうそう、ここで彼らの奇妙な振舞について触れておかななくては。題して「コケコツコ土遁の術」。

雌鶏が地面にうずくまり、羽を懸命に打ち振っている。飛ぼうとするような大きな動きではなく、地面近くを掬うように、である。見ると鶏の姿が少しずつ沈んでいくではないか。

目を疑うような光景だ。体の下で動かしているのはもしかして足？　そうか、土を掘っているのか。そして羽で掻き出している？

喫水線(喫土線？)から5cmほど沈んだところで鶏はようやく動きを止めた。そして心地よさそうに目を閉じた。「なにをやっているの？」と祖母に尋ねてみた。彼女の答えはこうである。「あれは銷夏法の一つ。鶏は賢い。地面の下は涼しいと知っている」(鶏の土遊びについては「体に付いた虫を払う」など他の説があるようだが、私としては祖母の話に軍配を上げたい)

この賢い鶏さんたちと親交を深めようと思う。しかしこれがなかなか難しかった。群れに混ざろうとした途端に大騒動が起きる。いたずら坊主に捕まつてたまるか、とばかり四方八方に逃げていくのだ。敵も然る者。尻尾に触ることさえできない。鈍

そうに見えた鶏だが、動きの鈍いのは私の方であった。

「気をつけなさい。目をつつかれるよ」何度親からこの言葉を聞いたことか。

どうにかこうにか鶏を抱けるようになったのは小学三、四年の頃だ。こつがあつた。むやみに追いかけてはいけない。警戒させてもいけない。そつと近づき、羽の付け根付近をやんわりと両手で押さえる。そしてそつと持ち上げる。力はあまり必要ない。要領がわかるとその後は成功率一〇〇%である。この技術が鶏飼育助手としての私の活動に大いに役立つこととなった。

日暮れともなると鶏は小屋に帰る。隊を誘導するのは私の役目である。ヨーロッパでいえば牧羊犬。米国ならさしずめカウボーイというところか。もつともこのカウボーイ、腕っ節の弱さには定評があつた。それでも

一向に差し支えないのは狼が出るわけでもなく、牛泥棒が襲ってくるわけでもないからだ。真正正銘、ただの誘導係。おとなしく従ってくれる鶏が多いのだが、ひい、ふう、みい、と数えてみると——あれつ、一羽足りない！ ははん、あそこだ。小屋の陰に黒い尻尾が見え隠れ。仲間外れのブラックシープならぬブラックチキンだ。怖がらせないように上手に抱え、無事帰還と相成つた。仕事は最後まできつちりと。それが飼育助手の務めだ。

鶏舎は庭の片隅、直射日光が当たらないように作られている。内部には鶏が止まれるように木や台が設置されており、五つ星ホテルのような快適空間だ。でもベッドへ行く前にはまず食事、食事。

鶏の主食は穀類である。米糠、フスマ、大豆粕、とうもろこしが主体で、それに野菜の切れ端が入っていた。

使い古した俎の上で祖母が菜っ葉を刻んでいたのを憶えている。餌には魚粉が混ざっていたようにも思う。印象に残っているのは牡蠣の殻だ。細かく砕いて餌に混ぜる。「これがな」と卵の殻ができない」と祖母が言っていた。一度だけ、カルシウム不足の鶏が産んだ卵を見せてもらったことがあつた。なるほど殻らしい殻が出来ていない。ぶよぶよで卵円の形も取れず、いまにも溶けて流れそうな不気味な卵だった。

必要な栄養をまめに与え、適度な運動をさせれば、外側も中身も立派な卵が産まれる。人間にはとても食べられそうにない雑穀や貝殻、(それに虫とかミミズとか！)が鶏の体の中で美味しい卵に化けるとは。私には不思議でならなかった。

♪ コッココッココ、コケッコ、コッココッコ、コケッコ／わたしはミネソタの卵売り……

ラジオから陽気な歌声が流れてくる。
『ミネソタの卵売り』だ。

♪……卵に黄身と、白身がなけり
や／お代はいらない、コッコッコッ
コ、コケツコ

はい、うちの卵には黄身も白身もありましたよ。とても美味しいのがね。熱々のご飯にかけ、醤油をたらしで食べる。なんというご馳走！

ミネソタなんてどこにあるのかも知らなかったのに、この歌はよく口ずさんだ。私の頭の中では売り子が雌鶏に変身する。羽の先に卵を掲げてコッコッコと売り歩くのだ。その姿があまりにも滑稽で、思わず笑ってしまう。自分の想像であるにもかかわらずだ。もしかしたら本当に信じていた？ 人間ではなく、雌鶏が売り歩くのだと——。無邪気と言えば無邪気、馬鹿馬鹿しいと言えどとびつきり馬鹿馬鹿しい、わが幼年時代のことである。

そうだ、鶏一家の大事なメンバーを忘れていた。ひよこ——たまにではあるが卵から雛が孵ることがあった。淡い黄色の小さな毛玉。フワフワと柔らかくて、うっとりするほど温かい。掌に載せると愛らしい口を開けて「ピヨ」と啼く。それはまさに「ピヨ」としか書き表しようのない声だ。つぶらな目、小さな足、まるで魔法の国から抜け出してきたかのようにだった。このような可愛い生き物を私は他に知らない。

生まれたばかりのひよこには、見るもの聞くものすべてが新鮮だ。母鶏の周りを付かず離れず、目をキョロキョロさせながら遊んでいる。疲れたらみんなで集まり、ぬくぬくとお昼寝。目が覚めたらまた冒険ごっこかな。子供たちの寝姿をやさしく見守る母さん鶏。あれっ、父さん鶏はと見れば、あっちの方を向いて知らんぷり。

雛鳥の成長は早い。あつという間にお兄さん鳥、お姉さん鳥になつてしまう。嘴は硬く、眼光鋭く、肢は頑丈に、爪は鋭く……あのフワフワのおチビちゃんはどこへ行つたのだらうと悲しくなる。だがこれも生命の流れ。彼らは早晚お父さん、お母さんとなり、次の世代を育むことになるのだ。

以上、私と鶏とのハネムーン時代を思いつくままに書いてみた。我が故郷土佐には、三長鳴鶏の一つ東天紅、また尾羽長十mを誇る尾長鶏、など全国的に名高い鶏が幾種類かいる。古くから、食用としてだけではなく愛玩用家禽として大切にされてきたのだらう。鶏と人との絆は確かに強かったように思う。家族の一員、と言えど言い過ぎかもしれないが、少なくとも子供たちのよい遊び相手であった。時計を巻き戻しながらしばし感慨にふける——私のような元少年

も決して少なくはないと思うが、いかがであろうか。

さて前置きが長くなった。そろそろ本題に移らなくてはいけない。「木になる鶏」の話である。

今から三十年ほど前になるうか。

家族で遠出した帰り道、と或る寺に立ち寄った。門前に案内板のようなものがあり、「七福神 寿老尊」と書いてある。境内はやたら乾燥していて、歩くと土埃が立った。右手に大きな木が見える。娘が叫んだ。

「お父さん、鳥が木に止まっている！」

鳥が木に止まるのは当たり前じゃないか、素つ頓狂な声を出すな、とたしなめながらよく見ると、なるほど驚くのも無理はない。トリはトリでも鶏だった。うす茶色や白色の鶏、赤青、茶色で色分けした派手な鶏など、全部で七、八羽はいるだろうか。それ

が木の枝に行儀よく並んで、まるで果実が成るように止まっているのだ。随分と高い枝にもいる。五m？ 家でいえば二階の高さだ。いったいどうやって上ったのだろう。

「ねえ、鶏って飛べないんじゃないの？」と娘。

故郷のわが家にも枝に上がる鶏はいた。だがせいぜい一〜二mの高さまで。こんな光景は初めてである。この鶏は揃いも揃って高跳び選手？ それとも鳩や雀のように羽ばたいて空を飛んだ？ うーん、これは想像しにくいな。

なんとかして木を登り降りするところを確かめたかったが、鶏たちは動こうとしない。首を回したり、たまに横にずれたりする程度だ。足を折りたたんでうずくまった姿勢なので、大きな果実が枝に成っているようにも見える。木はどうも枝垂桜らしい。はて、枝垂桜に鶏の実が成る？ こ

れまで聞いたことのない話だ。本当の木の実と違って美味しそうに見えないのはあたりまえ。全体としていかにもミスマッチ、という印象を受けた。

それにしても彼らが木の上にいる理由がわからない。狼や狐の潜んでいる気配はなかった。外敵を避けるのが目的ではないとすれば、涼を求めて？ 単純に楽しいから？ それとも住職から餌をもらう代わりに寺の見張り番？ いや全く分からない。当の鶏たち、半分は瞼を閉じて睡眠モードに入っている。見張役だったとしてもこれではね。残りの半分だって、まるで関心なさそうなボツとした目つきでこちらを眺めている。木になる鶏には謎が多い。果実うんぬんは冗談だとして、いかにも気になる鶏たちであった。

気になると言いながら、時と共にこの鶏たちの記憶は薄れていった。

他所で枝垂桜の木を見ても、鶏と結びつくことはなかった。

思い出が蘇ったのは先日のこと。

偶然あの時と同じ道、同じ場所を通りかかったのだ。そして同じ案内板を見かけた。「七福神 寿老尊」。三十年も経っている。表示はもちろん新しくなっていた。もしかしたら、あの鶏たちの末裔が残っているかもしれない。同じ木に止まっているかも——そう思つて境内に入った。

ピカピカに磨かれた石畳が本堂へと続き、周囲には真っ白な玉砂利が敷き詰められている。建物も新しくなっていた。隣接するのは近代的なコンクリート造りの墓地だ。土埃が無い、塀の崩れかかった、嘗ての古刹のイメージはもうない。

件の枝垂桜を見つけた。以前に比べるとずいぶん高く、大きくなつた気がした。鶏は？いない。枝の上にも木の下にも……ぐると見回した

がどこにも姿が見えない。住職が代わつて飼うのをやめたのかもしれない。玉砂利の庭では鶏は育つわけがない。殺風景な境内には鶏はおろか犬、猫、鳩や小鳥の類も寄り付かないように見えた。樹木も心なしに精彩を欠いた様子だった。残念なことである。

張り出した枝を前にして「木になる鶏」をイメージしてみた。記憶が曖昧なため、浮かんでくるのはぼんやりした像のみ。果実が成っているようには到底見えなかった。頭の中で想像した鶏たちは半眼を閉じてこちらには無関心を決め込んでいる。もともととは寺で飼っていた鶏。彼らと私との間には心が通い合っていないのだから、当然と言えば当然だった。

鶏の先祖は東南アジアに棲む野鶏だという。その代表がセキシヨクヤケイで、今から五千年前には人に飼

い馴らされていたらしい。日本に來たのは弥生時代よりも前と聞くから古い話だ。セキシヨクヤケイのことを図鑑(荒俣宏著『世界大博物図鑑4 鳥類』平凡社)で調べてみた。驚くほど鶏に似ている。雄の頸と背中が赤茶、胴体の一部は青色、尾羽は青黒い。私が田舎で一緒に遊んだ地鶏そっくりである。東天紅など美しい羽色を誇る種はこの野鶏の直系ではないだろうか——とこれは私の勝手な推測

ところ。このセキシヨクヤケイ、飛ぶのが得意だった。家禽すなわち鶏となる過程で体重が増加し、飛行能力が衰えていった、と一般には考えられている。鶏(雞)の扁「奚」は「ひもでつなぐ」の意味だという。

「紐」プラス「隹」。つまり鶏というのは紐で繋がれた鳥だったのだ。文字の成り立ちについては異説があるから何とも言えないが、もしこれが本当たると、愉快的光景が目

浮かんでくる。紐を付けた鶏の先祖が大きく羽ばたいている姿だ。空高く舞い上がって木の枝に止まる。「コケツ、コケツ」、一羽が呼びかけると仲間が次々と飛んでくる。押し合いへし合い、鈴なりの状況だ。これぞまさしく元祖「木になる鶏」。

夕食の時間は人が紐を引いて知らせたのだろう。合図とともに彼らは地上に降り、慌ただしく餌をついばみ始めるのだ。さぞかし賑やかなデイナータイムだったに違いない。お互いの紐が絡まって大混乱が起きたのではないか、とついつい余計な心配をしてしまう。

それにしても、人間と鶏との絆が、目に見える「紐」という形で存在した（らしい?）という話は冗談のようにでなかなか面白い。

鳥類は獣脚類という恐竜の一グループから進化したと言われている。前肢を翼に変え、羽毛を整え、さらに

は骨格を軽量化して飛翔に成功した。その後多種多様に発展して今日の繁栄を迎えた。地上から大空へと向かった流れを順方向とするならば、飛ぶのを止めて地上に降りるのは逆向きのように思える。

ダチョウやエミューも嘗ては飛ぶ鳥だったそう。信じ難い話だが生物学者が言うのだから本当だろう。彼らは飛翔能力を失った代わりに逞しい肢を得た。今や地上を闊歩する存在である。鶏も同じ道を辿っているのだろうか。いや、どうもそうではないらしい。

両者の根本的な違いは竜骨突起の有無だという。竜骨突起は羽ばたきに必要な胸筋を支える重要な構造物である。ダチョウの場合すでに退化して、これがない。鶏にはまだ、ある。つまり、鶏は飛べる鳥なのだ。飛べないけれどただ飛べないだけ。家禽化によって外敵に襲われる危険性が少な

くなった。体も改良されて重くなった。鶏の身になってみれば、ええい面倒くさい、飛ぶのはやめよう、つてな具合だ。能ある鷹は爪を隠す。いざとなれば鶏も飛ぶ。水平距離なら五十m以上飛んだ記録があると聞く。木の枝に止まることくらい実は朝飯前なのだろう。いや御見それしました、というべきかもしれない。

人の手によって野鶏は地上に降りて鶏となった。形態の変化は起こしていない。高々五千年の歴史とあらば当然の事だろう。今後十万年、百万年と時を経るにつれて変わっていく可能性はある。できれば人為的な修飾を排した状況で——極端なことを言えば人類滅亡後——彼らがどのようにに進化していくか、それを知りたいと思う。もちろん養鶏場の鶏は対象ではない。今なお世界のあちこちで放し飼いにされているであろう野性を保った鶏たちの話だ。

以下は鶏の未来に関する、素人の乱暴かつ非学問的な推測である。

二通りの道が考えられる。まずは彼らが鳥そのものの道を歩み続けるという見方。人の保護を失った途端鶏の生活は一変する。餌を獲るのも自分、身を守るのも自分。必然的に体重を落とし、俊敏な動きや高い飛翔能力を取り戻す方向に進むだろう。人類がいなくなると地球の環境は激変するに違いない。文明化により片隅に追いやられていた緑が失地回復を目指す。長い時間をかけて大地は森や林に覆われていき、そこは野鶏に戻った鶏たちの王国となる。セキショクやケイよりもはるかに鮮やかな色の鳥が木々の間を飛び回り、鶏であつた時からは想像できないほど高調で情熱的な声で歌う。彼らは森の生態系の重要な一員だ。餌となる小動物や天敵の捕食獣との間に絶妙のバランスを保ちつつ、長い間栄え

続けることだろう。

さて、鶏の未来としてのもう一つの可能性は？ それは飛ぶことを止める、というものだ。鶏の大型化が加速する。より重く、翼は小さく、肢は太く、となれば地上生活への完全適応である。野に放たれた鶏はもはやニワトリ（庭鳥）とは呼べない。竜骨突起は消失した。食事の範囲を広げるために歯を生やした。発達した肢と鋭い爪は一撃必殺の力を秘める。大地を疾駆する様は、新生代の初期に活躍した食肉鳥ディアトリマそのものだ。

そしてあろうことか、時代が下がったある日、それまで翼のあつたところに前肢が出現する。天の気まぐれと言うべきか。（いったん失われた遺伝子情報が発することはない、というのが今日の定説である。したがって「天の気まぐれ」と書いた。）もはやこれは恐竜だ。鳥の先祖の鳥型恐

竜。鶏は掟を破つて進化の系統樹を遡った。

一方は「鳥」そのままの道、もう一方は「恐竜」へと続く道。どちらの可能性が高いかはわからない。ただ後者だと少し困ったことが起きる。十二支を変更しなくては行けない。「とり」を「きょうりゅう」に差し替える。ところが、いくら「りゅう」と短く呼んだところで——「ね、うし、とら……さる、りゅう、いぬ、お」では、いかにも言いにくい。滑らかさに欠けるのだ。元のままだと「ね、うし、とら……さる、とり、いぬ、お」うん、やっぱりこうでなくっちゃね。ここは鶏君、大いに発奮し、先の世も鳥類として存続してほしい。私個人としてはそう願っています。

まあいずれにしても、人類が滅亡した後の話。人なければ暦なし。暦なければ十二支もなし。呼び方にこだわっても意味のないことですが。

夢はまぼろし 序章

八潮 哲三郎

岡田は久しぶりに医学雑誌からの依頼の原稿を書いていた。大学を離れてからもう十年以上の時が過ぎている。最近の国内外の雑誌の総説を見ながら作り上げた草稿に加筆していたが睡魔に襲われそのまま床についた。不意に飛び起き大学での医局での生活のことを思い出していた。どうも夢のようだ。しかし今回の夢はどの奥にひっかかりいつまでもとれない棘のような違和感があった。医療の最前線に居続けている岡田は床に入った途端眠りにつき四時間半で目を覚ます。夢をみることなどなかったが、今日は朝までベツドの上に座っていた。脳の中はぐるぐると過去の出来事が回り続けた。論文執筆が刺激となりフラッシュバ

ックしたようだ。朝まで夢の中のできごとを考えていたが、棘はそのままにしてはいけないと思い、今晚宮本と間島に話そうと決めた。

岡田は五十歳まで大学病院で准教授を務めていた。しかし教授選考の過程で、自分を外す策略が内外から起こっていることに気が付き、そんなにしてまで教授職には就きたくないという気持ちが強くなり、そのまま教授選には出馬せずに大学を辞職した。あのドタバタから十年が過ぎ、還暦を過ぎた頃よりテニスを再開することにした。テニススクールに通い始めたのではなく、シニアのテニス大会にチャレンジすることにした。高校時代田舎の代表ではあるがインター杯に出場しそうになったこともあり、進路も医者になるかスポーツ選手になるか悩んだこともあった。選んだ医者道は大学で准教授になるまでやりとげ、その後民間の医療

現場に入っても副院長として当時赤字であった病院収支を彼の臨床技能を生かし、赴任の翌年には経常収支を黒字に転換させることに成功し、

黒字経営は今なお維持し続けている。丁寧な診療で病めるものを引き付ける力と大学で培った抜群の臨床力を持ち合わせている岡田は現在の病院の院長をはじめとする執行部そして病棟や外来のナースたちから十分すぎるほど信用されている。岡田には学生時代から取り巻きの多いわけではないが、気が合うグループのいくつかに関係していた。今も続いている間島と宮本とは特に親しかったわけではないが、あえて共通点をあげれば心臓の電気生理に興味をもっていったことである。ベクトル心電図という今は使われなくなってしまう検査法があり、難解ではあったが心臓の刺激伝導を理解するにはよい手法であった。心臓の電気生理を専

攻めている循環器内科の講師の指導を受けながら、ベクトル心電図の専門書や不整脈の解説と対処を論じた専門医の必読書を医学部の定期試験はそっちのけで解読していた。医師国家試験が終わり実務の医療に入っていたが、岡田たち三人は結局循環器を専攻しなかった。岡田は整形外科、間島は消化器外科そして変わり者の宮本は心療内科に携わった。四半世紀が過ぎた後、三人が大学の同窓会の万年幹事であったこともあり、打ち合わせのメールのやり取りをしているうちに、年に三―四回三人は集まるようになった。集まるとだれが決めるともなくその日の語り部が決まり、あとの二人は聞き手になる。そんな集まりが始まり、かれこれ十年になる。始めたころは食欲が先行し東京の老舗のお店を食べ歩こうということになった。神田須賀町にあるあんこう鍋のいせ源、深川に

あるさくら鍋のみの家そして柴又にある鯉料理の川甚など、三人それぞれが知ってはいるがご無沙汰してしまっているお店を探し、食談義などしていた。消化器外科を専攻している間島が検診でヘモグロビンA_{1c}が7.0となつてから、老舗ツアーは止めになり、食の探索からは離れた。自然と過去の仕事の懺悔のような話が多くなつた。その日は院長をしている間島がちよつと遅れて二人に合流した。再開を祝つて乾杯してから、昨夜フラッシュバックした医局時代のことを岡田が話し始めた。

昨日うたた寝をしているとき悪夢にうなされ、夜目が覚めてしまった。うつつの出来事のように思ひ、しばらく動悸が止まらなかつた。間島と宮本はカウンセラーのように傾聴する体制になつていた。夢は医局長時代の新薬開発の手伝いをしていた時の違和感のある出来事のことであつ

た。岡田は学会での発表のことから話しはじめた。二年に一回開催される国際鎮痛薬理学会がその年は神戸で開かれた。二千人は集まる大きな学会である。岡田が発表する会場はC会場である。百五十人位の中型の会場であつたが、一時間前に行つてみると、椅子席が埋まり、後ろの方は立っているものゝいる。人が多いなと思つたが、気にはならなかつた。

岡田は医局に在籍して十年以上になる頃から学会ではある程度は自由に自分の主張を述べてくることが出来るようになっていた。しかし今回は教室責任者の西別府教授が外せない講演会が重なつていたので、数日前に医局のメールボックスにメモが入つていた。J₁の第二相後期と第三相試験のそれぞれ二重盲試験を発表してくるように書いてある。J₁おおといえどキーオープンと同時に業界紙が治験成績の結果を号外の

ように報じていたあの薬剤である。西別府教授が代表を務め、岡田も参加していた治験であった。

西別府教授は消炎鎮痛薬開発の国内屈指の研究者である。既に国内の消炎鎮痛薬の開発を数種類手がけ、あのグループに頼めば早く治験が進み、期待通りのデータが得られると製薬会社の開発担当者たちの間では評判であった。岡田は今回の開発治験も極めて順調に進んでいたことは承知していた。岡田は教室の医局長に任じられており、外来や病棟のマネージメントを任されていた。開発治験についても必ずどの治験のキックオフミーティングには参加するようにとの指示は秘書を通して受けており、全国の名だたる指導的な立場にある整形外科医が集まることが多いので、自分の存在を知ってもらうためにもミーティングには仕事を繰り合わせて出るようにしていた。岡

田にとつては自分より一段上の偉いさんたちの共同作業が治験だと思っていた。今回はしかもその名だたる偉いさんたちの作業の結果を自分が国際学会で発表するように言われている。分不相応だとも思えるし、拔擢されたとも思える。ともかく次元の違うことであることだけは確かで、違和感を覚えた。

水曜日の西別府教授の回診が終わり、グラウンドラウンドが始まるまでの五分ぐらいの余裕の時間ができたが、その時岡田は教授室に呼ばれた。

「岡田君、今度の国際学会の件だけど、よろしく願います。抄録には君の名前も入れてあるから。それから発表用のスライドは湘南製薬の治験部長の本郷君が持っているのので、接触して打ち合わせてください。」と手元の郵便物を開けながら話した。

教授室に呼ばれて窓に向かって置かれている木製の両袖机に大きな背もたれのついた椅子の横に三人掛けのソファがある。そこに座ると、関連病院への出張の指示や時に退職の勧告を受けるかもしれないという不安と緊張感がよぎる。

「私ごときの若輩者で、役割が果たせるでしょうか？私は留学の経験もありませんので英語も自由ではありません。」

と岡田は正直な気持ちを伝えた。

「君は今回の治験にも参加しているし、十分な症例数のプロトコールも書いてくれているし、最適だと思っています。」

といい、以降はこれ以上会話はいいらないという意思表示として、椅子を正面にあるデスクに回転させ、二十センチくらいある郵便物の処理を始めた。もう少し岡田は聞きたいと思った。業界紙のトップ記事になる

ようなとてつもないデータ、しかも外部に公表するのは治験を始めて以来、初めてになる。そのような輝かしい発表をなぜ代表の西別府教授がしないのか？抄録は三か月くらい前に出しているはずなのにどうして岡田がファーストになっていたのか？など聞きたかった。しかし質問を続けることは空気が遮断していたので、そのまま頭を下げ、教授室を退出し、ワンフロア下の医局に戻った。データも全般改善度で有意差が出ている。上梓される条件はそろっている。初めての国際学会での発表でもあり、代表者にとっても花道であるはずである。岡田は関係者の一員にしか過ぎないが、その岡田ですら誇らしく思っているのである。教授の性格からしても、以前からの行動から見ても西別府教授が国際学会で得意満面で発表している姿がどう見てもフィットしている。岡田は自分が舞台に

立つことに違和感は続いていた。

それまでの非ステロイド系の鎮痛薬は胃腸障害の副作用が強く次世代の新薬の開発が期待されていた。しかし副作用の発現を抑えるコンパウンドはできるが、同時に薬効も減じてしまい、新しいタイプの消炎鎮痛剤の開発は暗礁に乗り上げていた。既に日本で最大手の製薬メーカーである渡辺製薬はやや構造的の違うCOX-2の選択的阻害薬の新薬開発の臨床試験に着手し第Ⅱ相後期試験を終了していた。しかし用量設定試験の結果が思わしくなく、第Ⅲ相試験への移行を断念したというニュースが衝撃を伴って関係者に通知されていた。臨床試験には莫大な開発費用と時間がかかる。普通四週間から八週間の期間の投薬が行われるが、この治験を行うために必要な治療前後の採血検査や心電図等の検査費用は全て開発している会社が保険外医療

となるため、全額会社が負担する。また治験を担当する医師にも受託研究費を支払うことになる。通常の受託研究ならば研究を受託される側にも結果のオリジナリティーについて権利を持つことになる。一方新薬の開発治験において製薬企業ではその後の新薬の販売のこともあり、全てを製薬企業が権利を保有することになる。したがって治験を担当した医師たちは権利の放棄を前提にしたものであるため、医師たちが行った治験で得られたデータを買い取るようなスキームになっているため、発売後に義務づけられている市販後調査である第Ⅳ相試験のケースカードに比べて約十倍程度の治験遂行の報酬を支払うことになる。勿論治験を担当した医師が個人的に報酬を受け取るのではなく、教室の研究費として受け取ることになる。しかし上梓に成功し、薬効が広く受け入れられると

一年間に数百億円の売り上げが期待できる。しかも特許の期間が続く限り独占販売できる。したがって新薬開発はいわば社運をかけた一大プロジェクトである。一方で開発を断念せざるを得なくなると開発チームも解散になり、また大きな会社への損失を与えたことになるので、責任者たちは辞職することになることが多い。

今回米国に本社がある多国籍企業が開発しすでに十か国で発売されていたものを日本最大手の渡辺製薬が日本への導入のため治験を進めていたが開発中止となり、Eちあは渡辺製薬の開発中止したOとえ選択的阻害薬より効力はやや弱い印象であったのに治験は大成功しており、不条理を感じていた。U46おの手こたえの印象は好ましいものではなかったが、岡田が担当したケースは全体の十分の一にも満たない少数の体験で

しかなく、全体の新薬の効き方を代表しているとは言えない。しかし治験結果は他の薬に比しても、国内の同じ薬の別のグループの成績に比べても抜群の結果である。この段階でも釈然としないものを感じていた。

湘南製薬の本郷本部長が事前に打ち合わせに来てくれ、立派な出来のパワーポイントが岡田の手元に渡された。岡田が自分で学会発表するとき是要点を箇条書きでまとめた簡単なパワーポイントで発表している。自分で評価しても、素人くさい見栄えのしないプレゼン媒体となってしまう。しかし岡田は大したデータでもないのに画像だけ立派に仕上がっていると却って発表者が薄っぺらに見えてしまい、発表内容に引きずられ発表者までも、見せかけだけと感じてしまう。そのため岡田は発表用の画像は凝らないことにしていた。しかし本郷本部長が持ってきてくれ

たパワーポイントは一見してプロの手によるものだと思われる色のバランスや字のポイントの使い方まで計算された仕上がりのものである。教授たちが発表に使うパワーポイントは製薬会社を介してプロの手が入ったものが多いように思った。教授が創業に関係した学術発表の立派さのからくりが理解できたように思った。「岡田先生、よろしくお願いします。当日は会場横のホテルの前で待ち合せましょう。」と本郷開発本部長に言われた。

岡田からすれば、製薬会社の開発本部長のような地位の高い役職者と接する機会はなく、年齢的にも社会的にも本郷開発部長と岡田は天地ほどの違いがある。岡田は圧倒的な格差を感じると、質問しにくいことを上申してみたくなる。今回の治験の岡田が疑問に思うことを単刀直入に尋ねてみることにした。

「L146の関西グループでの治験の成績は有意差がでたのは安全性のみで、全般改善度や有用性では有意差がでなかったとききました。どうして西別府教授のグループの治験があんなにきれいに有意差がそろって出たと考えられるのですか？」

本郷はこともなげに言った。

「それは西別府教授が発案された用量と観察項目のデザインがよかったからです。関西グループのものも統計的に十パーセントの傾向はあるものの有意差がでないという惜しい状況でした。」治験は同時並行でいくつかのグループでやや異なるデザインで実行することは治験としては一般的なことではある。

岡田は本郷の話しは本当でないと思った。西別府教授は絶対に自分から提案をしないことを岡田は知っていた。デザインは会社で考えたものであると思った。突き詰めればプロ

ジェクトリーダーである本郷が考えたことになる。治験は会社が考え、会社の考えた通りに進むように西別府教授が実施の医師たちに指示するという構図だ。

岡田は普段の学会発表では、初学の頃は読み下しの原稿を作っていた。四百字詰め原稿用紙一枚分がゆっくり読んで一分二十秒が目安である。さすがに教室の在籍が十年を超えるようになってからは、読み原稿は持たない。それでも時間通りに要点を踏まえて全うすることができる。しかし今回は画期的な有意差が治験の三つの指標全てで出ていることを十分アピールするには、肝心の全般改善度の数値を英語で言い間違えてはいけないと思い、読み原稿を作ることにした。今回の発表は全般改善度、安全度、有用度の改善の数値を言い間違いないこと何よりも必要だと思った。たどたどしくはあったが岡田

は与えられた時間内で発表は順調に終了した。発表の司会には以前別の新薬治験で一緒したことがある地方の国立大学に所属している薬理学の橋田教授であった。

「非常に高い有効性が開発治験で見事に示されました。それでは討論に入りたいと思います。」と司会の橋田教授は満席のフロアに発言を促した。ばらばらと手があがった。どんどん手が上がってくる。三十人くらい発言を求めているように思う。立ち見も出ていた聴衆は岡田の発表を確かめに来ていたのだ。学会の質疑は五分取ってあるが、これでは五分で終わるわけがない。矢継ぎ早に質問が続けられる。

「対象にしている疾患の詳細が知りたい。」

「開発中止となった同じ種類の薬剤なのにこれほど素晴らしい結果が得られるのか？」

「先行しているまたは並行している治験はどうなっているのか？」

岡田は語彙不足から仕方なくショートアンサーで答えていくが、時々英語が出なくなりもたついてしまう。すると司会の橋田教授が英語で内容に追加してくれ、それに岡田しかわからないデータを岡田が追加する質疑を繰り返した。質問は止むことはなく十分過ぎても十五分が過ぎても質問が続いた。何十回となく学会発表をしてきたが、大学を離れてから思い起こしても、これほどまでに結果に興味を持ってもらったことはなかったと改めて思った。

ここまで黙って話を聞いていた岡田は

「岡田。いい思い出じやないか」と言葉を挟んだ。

すると、岡田は

「ここで話しが終われば、ある学会の出来事という自慢話しってこと

でこのままぐいつとアルコールをいただいて酔って終わりだと思うのだが、数年前臨床試験のデータがねつ造された事件が大々的に報道された。あの報道を聞きながら、僕はあつと思っただ。」

「えっ。何をあつと思っただ？わからないなあ。」と岡田が岡田にけげんな表情で尋ねた。

岡田は続けた。

「勿論根拠はない。でももしかしたらあの臨床治験でも結果の一部が都合のいいように操作されたのではないかと不安に思っているんだ。当時の状況は岡田や宮本は知っていると思うけど、キーオープンはコントローラー立ち合いの下会社の担当者が当たり前のように数字を扱っていた。でもこの開発治験の結果を直接さわることでできる立場にあつて、一人だけ結果に利得を伴う人がいるじゃないか。」

「今の治験はコーディネーターなど第三者的な関係者がたくさんプロセスにかかわるようになった。それってなぜ？つまり以前の治験の過程ではそのプロセスに不確かさがあつたといっているようなものではないか？」

「湘南薬品は特別うちの教授のお気に入り、よく一緒に飲んでいたらしい。そういうことがある程度黙認されていた時代でもあつたように思っている。僕ら医局のものよりも教授に近い位置にいたと思うよ。」と岡田は遠くを見つめるように言った。

「岡田はそういう時代だったというが、僕は当時から開発担当医師が製薬会社と接近することは良くないことだと思っていた。」と心療内科を専攻した宮本は岡田のつぶやきには同意できないと強い口調で発言した。宮本は准教授時代に教授会に陪席している時に、本来は教授会では発言

が許されていないのに、挙手し突然立ち上がって発言し、司会をしていた医学部長に提案の議事に食って掛かったことがある。受精卵の操作についての研究を巡っての事案で、医学部長が「貴様のようなバカ野郎がいるから人に役立つ医学の研究が進まない。」と怒鳴り、宮本は「バカ野郎はどつちだ。」と食い下がった。地位の格差が明らかかな状態での意見の対立は多くの大人たちは経験的に結末を知っている。宮本は「口は禍の元」と思ったが、発言は考え直しても後悔はなく、懲戒になるのは仕方がないと覚悟した。その場は産婦人科の平山教授が「学会も宮本君が言っている主張を論破できていません。」と介入してくれ審議は継続となった。宮本は今も大学の教授として大学管理の一翼をまかされている。三人の中では一番保守的な職場での管理的職務を遂行してはいるが、青年期に

ありがちの青臭い社会正義を今なお持て続けている不思議な存在である。「教授が接待を受けていたことが、当時は概念すらなかった利益相反に当たり適切でないだけ考えているわけではないんだ。治験結果を会社の担当者が集計し、おそらく翌日に公表される前に何らか都合のいい状態に変化させることができる位置にいたのは西別府教授と本郷本部長だ」と思っている。現在もJAGESは効果がいま一つだと言われているし、常用量も当時治験していた量の二倍量が一般的な使用量として使われている。効果が治験中止した渡辺製薬と同等かそれ以下だったというのが、当時の治験を担当していた医師たちの見解だった。臨床治験は水ものだからという不安定性は確かにあると思う。僕はもしかしたら西別府教授はこの結果はちよつと変だと感じていたのではないかと思うようにな

ったんだ。だから世間が注目する最初の公表を若輩者の僕に発表させて、自分は世間様への公表の責務を回避したのではないかと思っているんだ。」と岡田が長い話しを結んだ。

岡田が間髪を入れず、口を開いた。「岡田はやっぱいいやつだな。

その治験について操作はなかったと思うよ。目がそろうときって、博打でもあるじゃないか。あれよ。でもね。

岡田がそうやって自責的になるところがいいね。本当の教育者だね。」と岡田を賞賛した。岡田も話し終わ、間島の言葉に肩の荷がおりたようだった。

しかし社会派を自認する宮本は釈然としない気持ちが強くなった。

「おまは初の国産の薬として、上梓され爆発的なヒット商品にはならなかったが、広く知られている薬剤ではあった。再度治験をやり直したら、当時岡田が国際学会で発表した

ような結果はでなかったのではない
か。この問いかけは岡田の脳にフラ
ッシュバックした出来事としてだけ
残り、そしてまぼろしのように時間
とともに消え去ってしまうのか。

新薬治験がGCPにのっとり肅々
と行われるようになる夜明け前には
見えないいろいろなことが他の現場
でもきつと起こっていたに違いない。
疑わしい歴史が繰り返されないよう
に少しずつではあるが、システムは
改善している。岡田の話しを聞いて
宮本は過去の闇が一段と大きくのし
かかってくるように感じた。

岡田はほっとしたように、今は来週
のテニスの試合の話しを間島にして
いる。宮本はこの次の三人会で、もう
少しこの話しの続きを聞きたいと思
った。まぼろしのままにしてはいけ
ないと思った。

記備談語・7（28・08～28・11）

佐藤 玄祥

女性都知事誕生

世界各国で女性リーダーが増えて
いる。この度、東京都知事選で政党の
支援を受けないで出馬した、無所属
の小池百合子元防衛相が新都知事に
選ばれた。

政党推薦候補の選考過程の迷走で
実務家を推した与党と、統一候補で
勝利したい野党のそれぞれの思惑が、
有権者に見透かされ「都知事は都民
が選ぶもので、政党によるものでは
ない」と都民の意志が具現したのだ。
政策論争が主にならず、イメージ
やネガティブキャンペーンで決まっ
た印象になったのは残念だったが、
都政の旧弊を打破し、女性活躍社会
の構築や待機児童問題など女性なら
ではの施策を期待したい。幸い、政府

自民党は好意的であり、自民党東京
都連と都議会との対応に手腕を発揮
してもらいたい。（28・08）

山の日

8月に祝祭日が設定された。日本
は国土の3分の4が山地の山国。7
月の「海の日」に対応して、山の恩
恵と親しみの機会を設けた訳だ。

一九九〇年代「日本百名山」ブーム、
二〇〇〇年代には「山ガール」が登山
人口を増加させた。

長野県内の中学校では、明治期に始
まった集団登山が今も盛んで、郷土
の自然や集団行動を学ぶため、8割
以上の学校が実施している。登山の
達成感、成人になっても最高の趣
味として、受け継がれて行くものだ。

中学生の場合（12歳、44kg）登
山1時間当たりの消費カロリーは
347カロリー、水泳（クロール）の508、
ランニング370に準じ、自転車185、徒

歩139と続く(厚生労働省資料換算値)。参考にして、折角の祭日を、のんびりも良いが軽登山(近隣でもいい)を実施しよう。(28・08)

人工知能(AI)

NHKによると、東大医科学研でアメリカIBM社で開発された「人工知能(AI)」によって「がん治療」診断に福音が齎されたと、実例と実名による報告がなされた。

「AI」は物事を学習し考える能力を持つコンピュータのプログラム。チェスや囲碁などで人間に勝つだけでなく、今後は医療への本格的応用が進みそうである。

それは、二〇〇〇万件以上の症例と、一〇〇〇〇万件以上の治療薬のデータを基に「ワトソン」と呼ばれる人工知能によって新たな病名と診断治療法を的確に導き出すと言う、正に人間の叡知を超越した機械的判断で、

治療法を確立することが出来るのだ。

名人による経験や神がかり的な診断でなく、膨大なデータを駆使し、瞬時に判断する人工知能が今後の難病対策に効果的な影響をあたえることは確実なのだ。コンピュータと対し負けた棋士もあり、人間の能力以上の進歩が将来的に機械に負けたって、医学に利するならば、良いじゃないか。

シャーロックホームズばりの名判断を期待する。頼りにしているぜ「ワトソン」君！(28・08)

天の時・地の利・人の和

中国の孟子の「和」を説いた一節である。

8月8日首相官邸で安倍首相が、天皇陛下下の「生前退位」の意向を示唆された後での記者会見の対応の場に「和」と大きく墨書された額が掲示してあったと報じられた。

「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」が原文で、何かを達成する時「タイミング」と「環境」と「人心の結集」の3要素が必要の中で、「和」が最も重要なファクターなのだ。

リオ・オリンピックで男子体操の団体戦優勝や競泳のチームワーク、卓球のダブルス等「和」が発揮出来てこそ、最高の栄誉に到達した「証し」である。

卑近な例だが、わたしが「和」を以て歌道35年、剣道45年と永年培って来た体験は比べる可きもない出来事だが、自らのモットーとして「和」を表明し続けられたのも、ささやかな事実である。(28・08)

熱中症

8月の1週間(8〜14日)消防庁調べ「熱中症」救急搬送5554人(死亡2)。

猛暑真つ盛り、まさに酷暑の日本列島は最高気温が体温をはるかに上回り、連日40度近く、記録の発表があった。

医学的には「熱中症」は暑さに因って起きる体調不良であり、猛暑の為体内の水分や塩分が失われた状態の「脱水症」を防ぐことで予防出来る。症状としては、筋肉痛・吐き気・倦怠感・腹痛・食欲低下・下痢などが起こる。高温多湿の状態で、身体の水分・塩分が必要な、筋肉や脳・消化器に異常が起こり、意識を失って死亡に至ることもある。

特に、脱水弱者(幼児・高齢者)は、ひどい脱水症を防ぐため、水分・塩分の補給が必要で、牛乳(高タンパク質)とスポーツ飲料が不可欠。室温を下げる、放熱を助ける対応をすべきである。此の際はエアコンをけちらないで！

何事にも夢中になり、状況が判ら

なくなる「熱中」も困るが、生命に係わる「熱中症」は早急の対応が望まれる。(28・08)

全国戦没者追悼式

8月15日正午、政府主催の表題の式典が、天皇・皇后両陛下ご臨席の元、日本武道館で開催された。敗戦・終戦記念日とは呼称せず、戦没者を追悼し平和を祈念する日、天皇は「戦争の惨禍が再び繰り返さない切望」を表明された。

71年前、昭和20年8月15日、私は中学3年生の夏休み、疎開先の長野市で勤労奉仕のため伯母の農家へ手伝いに行き、暑い昼下がりに12時の玉音放送を聞いた。昭和天皇の声を初めて聞き、戦争は終わったことを知った。突き抜ける青空と蟬時雨がラジオを囲んだ従兄弟たちに降り注いでいた。

大東亜戦争と銘打ったあの忌まわ

しい戦争が神国日本と共に終結し、「負けたのだ」「もう空襲はない」とほっとしたと同時に、これからどうなるのかと大人達の話に割って入った15歳の夏の遠い思い出であった。(28・08)

光老化

この時期(夏場)紫外線対策に、新たに肌が老化する現象「光老化」が目されている。

われわれの肌に注ぐ太陽光は大きく分けて、赤・橙・黄・緑・青・藍・紫の七色の可視光線(52%)、紫外線(6%)、赤外線(43%)に分類される。問題の紫外線(UV)はA・B・Cに分けられ、UVBが皮膚の浅い層に「日焼け」(サンバーン)の症状が、又UVAにより波長が長く深層部に届き、黒くなつて皺の原因となる(サンターン)症状が起こる。UV Cはオゾン層のため届かない。

紫外線が「皮膚がん」に関係していることは知られている。皮膚の老化「光老化」は加齢による老化だけでは無い。肌の露出する夏のUVプロテクト（防御）が大切である。

（28・08）

2006連勝

代名詞となった「高速タックル」を武器に、オリンピックと世界選手権を合わせ16大会連続の世界一、国民栄誉賞を受賞し、世界中の女子レスラーに目標とされてきた33歳は、二〇〇一年暮れから実に個人戦206連勝中だった。

「負けた時の自分が想像つかない」と心境を語ったこともある女子レスリング常勝のあの、吉田沙保里選手が、リオ・オリンピック決勝戦（53kg）で、米国の新鋭マルリス選手（24歳）に敗れたのだ。オリンピック4連覇を遂げて引退を考えていた

一瞬の隙だったか？ 銀だつていいじゃないかと慰める事は易しいが、彼女は勝つて当たり前、引き際を大事にしたかったのだ。

「生者必滅・会者定離」とは言え、いつかは来る運命（さだめ）。本当に長い間その地位に君臨し続けた努力と精進には、国中挙げて感謝と称賛を捧げたい。後進は育っている、これからのことはゆつくり考えてください。

（28・08）

高価新薬使用指針

昨年12月、肺ガン治療薬として保険適用となった「オプジーボ」（免疫チェックポイント阻害剤「ニボルマブ」）が脚光を浴びている。

この阻害剤開発には、体中のガン細胞を全部消滅させる可能性が出現し、世界中の製薬会社が血眼になっている実状だ。

「オプジーボ」は長期使用が必要

で、薬価が1コース130万円、1年使用で3500万円もする。但し高額療養費制度により患者負担額は月に数万に止まり、残りは税金や保険料で済む。高齢者には重症筋無力症や1型糖尿病など特異な副作用も出るなどの問題も起きている。高齢者は無視されるかもしれない。

この度、厚生労働省では、これら高額な新薬の相次ぐ登場で、この「適性使用指針」の作成のため、所管の「医薬品医療機材総合機構」の組織の強化を決めた。

高齢化社会の現今、その使用基準の適用は、運・不運で判定されてはたまらない。だれも「がん」は治りたいのだ。このままでは国民医療費が破綻する。高額薬にメスをいれて欲しい。自己防衛あるのみか？

（28・08）

寮歌祭

昭和40年代、毎年テレビで「寮歌祭」を放映していた。旧制高等学校のOB連中が、弊衣破帽、腰に手拭い、バンカラ風で元氣よく、各出身校の寮歌を歌っていた。

戦後の学制改革で旧制高校は、それぞれ新制大学に昇格し、昭和45年生まれの中学生在が最後の「旧制高校」入学・卒業生に当たる。従って年々参加者が減り、時が流れ、今はすっかり寮歌を耳にする機会が少なくなつた。寂しい限りである。

私の敬愛する「作詞作曲家・星桂三」先生は、寮歌の詩がどれも文武を磨き、国を發展・豊かにし、学生の本分を全うする青雲の志の美しさに感動されておられた。時恰も、旧制最後の卒業生・早稲田大学名誉教授「三野昭一」先生（現在87歳）にお会いになられ、当時（5年前）82歳で歌手としてデビューされていた三

野先生に、「生涯青春歌」（懐かしの寮歌エッセンス）を作詞作曲され、CDとして発表され、元氣に熱き想いを、謳われていた。同年代の私も感動し、両先生の「歌の情熱」を普及するに吝（やぶさ）かではない。おおいに歌おう「生涯青春歌」！（28・09）

腸溶カプセル

日常、食べ物を消化する胃袋程「酸」に強い臓器は無い。また、胃は神経に過敏で消化液の分泌に影響する。鉄をも溶かす胃酸（塩酸）の存在が、消化と殺菌に役立っている。反面胃壁を自ら痛める（神経支配）ところの胃潰瘍・胃ガンの原因にもなっている。生きているビフィズス菌や乳酸菌製剤も胃で分解され、直接腸に届かない。必要な薬剤を腸に届けるための腸溶性カプセルを用いるのは自明の理である。通常のカプセルでは無く、腸溶の「ハイパープロテク

トカプセル」が役立つ。

戦前、腸内の悪玉菌を吸収するため、炭の粉（チャークール）が製剤化されたが、無差別に吸収し、黒い便として不評だった。

昨今、ハイパープロテクトカプセルが開発され、腸内環境改善の助っ人が出来た（森下仁丹）。マイクロカメラで実写証明している。（28・09）

ガラス張り

何処からでも中身が良く見えるという意味の「ガラス張り」は公明正大、隠しところの無い、健全な状態の事象に付けられる。

私共の剣友会は創立45周年になる。当時の中野区では体育館解放が無く、少年剣士達は隣地練馬区の小学校に通っていた。有志相図って地元での実現に「ガラス張り」の会計を条件に体育館解放を認可され、厳守して現在に至っている。営利団体

では無い。

近頃、政党の代表選に立候補した「蓮舫」氏が、旗印として語っていた「ガラスの天井を打ち破る」とは、女性の社会活動を阻む、見えない障害があると言う意味だ。

米国初の女性大統領に近づくクリントン女史も使っていたようだ。メイ英国首相、メルケル独首相ら女性リーダーがその潮流になっていることも意識している。

強化ガラスか並のガラスかは判らないが、透明と障害では全く違った意味合いを持つ。譬えられた「ガラス」は困って居ることだろう。

(28・09)

百歳の世界とPPK

敬老の日が近づくとき長寿の方々の活躍が話題になる。健康寿命の伸延に寄与されている百歳の方々の記事は、健康法・運動法・生き方等がご活

躍の素晴らしさと共に後輩の目標として注目されている。

「為せば成る」として80歳から始められ、現役最高齢の女性スイマー、104歳記録更新中の長岡三重子さん。「欲張ることが大事」と女性報道写真家、102歳笹本恒子さん。そして「知的活動が健康に」と言語学者の川崎桃太さん¹⁰¹歳の三人三様のお元氣な写真と記事は、新たな百歳の世界の指標と生き方である。

人間は本来、細胞学的には120歳まで生存可能と言われている。一つ一つの細胞の末端がほどこけて脱落する老衰の限界点なのだ。病氣・事故・栄養過不足等で死を迎える為、平均寿命は90歳未満である。そこで、これからは身体能力も脳も「確(しっか)り」として、他人に迷惑を懸けない百歳を迎えられるPPK(ピンピンコロリ)活動が最高の目標となるのである。元氣な先輩を見習おうでは

ないか。

(28・09)

モテ声

高齢の為か聴力が落ち、テレビの音量や会話に支障を来し、補聴器が役立つ。こんな折り、「モテ声」つまり「よい声」が注目されている。

職業的に発生が生命のアナウンサーの声が、周波数の違いで聞き取れない事がある。ボイストレーニングスクール「ビジヴォ」代表の秋竹朋子さんは、「モテ声」にはオクターブの高い「倍音」を多く含んでいて、通りが良く聞き取り易いため、相手への伝言・説得力が良好になり、好印象を与えると言う。「倍音」は鼻や口の共鳴によって良く発せられ、腹式呼吸を身に付けることで可能とのこと。

加齢により声も老化する。声帯の萎縮と開閉の不備・空気が漏れなどで、カスレ声や弱い発声になる。声帯を

鍛え「モテ声」を維持するには、カラオケの発声法が役立つ。

練習法として「あーあつ」と高音・

中音・低音で何回も繰り返し発声する。肺活量増加の全身運動も効果的。吐く息が多い程声帯がしっかりと振動し、吐く息の少ない胸式呼吸は好ましくない。わたし自身も聞き取り難いので、この方法で正しい発声に努めている。仏事の「声明（しょうみょう）」が共鳴し、素晴らしい雰囲気醸し出すのと同じである。

(28・09)

おっ気男子泣き

25年振りの優勝に、監督の次に胸上げされた広島カープの黒田博樹投手（9・10）は「長いこと野球人としてやって来て、こういった瞬間は無かった。最高のチームメイトに感謝している」と25年遠ざかっていた優勝を引き寄せた「おっ気」の言

は男の涙を引き立たせていた。カープファンならずとも感動した場面であった。

弱かった「広島」でエースとして孤軍奮闘、目標の優勝にすら加えられずチームは低迷していた。そんな時、アメリカ大リーグに挑戦、七年間自らを磨き、投手として実力を付け、20億円と言われた「オファアー」を蹴つてまで郷土チーム広島に復帰、2年目での快挙を実現した「男の涙や良し」である。

(28・09)

85歳限界

100 寿者が過去最高の 65692 人（女性 87%）と発表された。こんな折り、社会的環境や肉体的対応に、公務 85 歳限界説が浮上している。

生前退位の意向を示唆された天皇陛下のビデオメッセージが TV 放映された。反響が大きく、この問題に早急に対応すべきであるという意見が

多数あったことを知る。

陛下のお言葉の中で「現行の皇室制度に具体的に触れることは控えながら」と前置きされた上での問題提起と受け止めた。ご自身から「退位」のお言葉は無くとも、ご高齢に鑑み公務を減らす配慮が無い現行制度の見直しは当然為すべき急務である。

陛下のお言葉があったから検討するのでは無く、国民が何らかの対応を取れと言っているので「国民の反応」というワンクッションを挟む事で、天皇には「国政に関する権利能力」は無いとする憲法との整合性を持つことが出来る。

政府は有識者会議等を中心に、皇室典範特別措置法等を早急に対応策を講ずる可きだ。

不謹慎ながら同年の立場で「肉体の限界」を身近に感ずる日々である。

(28・09)

選手の強化

パラリンピックが終わり東京に引き継がれた。金メダルが0(メダル総数24)、中国は107と239、予想外の結果だ。全体的に世界新記録209は競技レベルの飛躍的向上に追従出来なかったようだ。地元ブラジルは過去最高14・72挙国一致の障害者スポーツ強化の結果と見る。日本では2014年、厚生労働省から文部科学省に障害者スポーツが移管され、強化のスピードを上げたようだが、練習環境整備の不備と対応するプロの指導者不足とボランティアに頼っていた面が原因と指摘され、東京開催に課題を残している。

注目度に関しては、独占放送権のNHKが、録画中心から初の連日生中継で注目度は上がり、障害者への激励と感激の応援に終始出来たが、レベルの差は如何ともし難く、選手の強化とレベルアップが国を挙げて

企業の理解と協力に取り組んで行くべきである。

「参加に意義がある」(クーベルタン男爵)から「記録に挑戦」が目標なので。

パラリンピックのパラはパラレル(並行)と定義される。(28・09)

九月場所観戦

かど番大関「豪栄道」が全勝で秋場所を飾った。ケガを一言も言わず稽古で治した「大和魂」が初優勝を齎(もたら)し、来場所への綱の希望を持たせた快挙である。

わが「御嶽海」今場所も一大関二関脇を破り、いよいよ新小結(長野県出身1932年高登以来)が予想される。好調「高安」を破ったのは自信に繋がったと思う。

中日(9/18)西栈敷で中野区県人会北原会長等と応援観戦、前半戦最好調の「隠岐の海」(二横綱三大関

を破る)との対戦は館内の悲鳴と共に敗れた。その後健闘し、千秋楽に10勝目を挙げたのだ。「白鵬」が休場だったが、連日の満員御礼。郷土愛から「御嶽海」の応援と相俟って、当日館内でのグズズ「御嶽海」のタオルは売り切れた。「千代の富士」の急逝は寂しいが、日本人横綱待望論に「稀勢の里」も再度挑戦、「遠藤・御嶽海・高安・正代」の若手の台頭に大相撲も盛り上がって来た。(28・09)

健康五則と五出の術

指聖浪越徳治郎先生は、日頃の健康管理に「健康五則」即ち、快食・快便・快眠・快労(働)・快笑を推奨されていた。

良く食べ、良く良便を快通、良く眠り、良く働き、良く笑う事である。最近新聞広告で、「スルツと出た!」と健康食品の宣伝をしていたが、食べた物が滞る事から、腸内の腐敗や毒

素発生・吸収、更には発癌等発病の過程を経過するのだ。

更に、五出(すい)の術を解説すると、それは「大小便を出す、汗を出す(労働)、声を出す、精を出す、気(力)を出す」と古来より言い伝えられている禅宗の掟のようだ。

日頃から声を出し、身体を動かすことで心肺機能を高め、趣味のカラオケ文化向上に役立っている私自身の健康法に即した健康五則と五出の術で、日常生活を快適に過(こ)し、長野県の提案しているPPK(ピンピンコロリ)運動に協力している。

(28・10)

やはりノーベル賞受賞

既報(28・04)オートファジー(自食作用)の研究が医学・生理学分野の一大テーマとなり、大隅良典(東京工業大学栄誉教授が10月3日付で、遂に最高の栄誉「ノーベル賞」[生理

学・医学賞]”を受賞された。

オートファジーのニュースソースは4月の段階で入手出来たので、最有力候補を先取りしたことになる。大隈栄誉教授は基礎的な研究者もノーベル賞の機会に恵まれると若い人が知ってくれたら嬉しいと訴えられていた。

実用からかけ離れた基礎的研究ほど常識の壁を突き破る成果が出ると、科学の世界に新境地が開かれ、更には画期的な応用にも繋がる。生命の営みに迫る大隈栄誉教授の研究がその典型なのだ。

「情報は必ず顕微鏡の中にある」と、自らの受賞のきっかけにもなった「酵母」を初めとする微生物研究の重要性を強調された。

日本人の三年連続受賞を称えたい。

(28・10)

ガン対策の検診精度

国は現在、がん検診の受診率を50%目標としている。「がん」は死因第一位の国民病で、国立がん研究センターの推計では本年度で100万人が新たに「がん」と診断されると発表した。

一方総務省は「がん」検診の精度を、2012〜14年の2年間の17都道府県で抽出・精査した結果、4割の7道県で不備が判明したと言う。精度が伴わなければ「がん」を見落とし治療の遅れとなり、逆に「がん」でないのに陽性と判定が出れば、心理的負担や不要の手術等に悩むことになる。総務省では検診の質が十分確保されていない状況があると所管の厚生労働省に改善を勧告した。

2007年施行の「がん対策基本法」は、がん検診の質向上のため必要な施策を講ずるとある。がん検診の精度向上は急務である。(28・10)

健康寿命延伸都市・松本

10月10日「信州の集い」が芝大門のメルパルクで開催された。勝手知った日比谷公会堂取り壊しの余波での新会場、スタッフ一同大奮闘、盛会に無事終了した。

配布パンフレットに「美しく生きる「健康寿命延伸都市・松本」創造」に向けての市民総ぐるみプロジェクト構想が宣言されていた。まさに、長野県の目指す「PPK運動」に則った市民一人一人の、健康で長寿を全うする、超少子高齢型人口減少社会に於いての目指すべき、最も基本的姿勢に取り組む事になる。

健康寿命とは、健康で自立して暮らす事の出来る期間である。平均寿命に近づく様全国民が理想とする「PPK運動」の増進が求められるのだ。それには個人の努力はもとより、食生活改善・相互扶助・保健医療・

公共福祉等、私たちを取り巻く、あらゆる環境を整備し、先進県として良いお手本になつて欲しい。(28・10)

領収書

税務申告時、必要経費として領収書を添付し、控除後納税する。勝手に手書き、増額したらどうなるか。厳しい脱税の罰則が待っている。

白紙の領収書で何枚も手書きしてもいいのが、国会で菅官房長官・稲田防衛相そして高市総務相の発言である。領収書とは受け取った側がその証しのため発行する証拠であり、偽つて書けば、文書偽造ばかりか詐欺や脱税などに問われる事がある。

政治資金パーティなら問題無いのか？ 高市大臣は「政治規定法に領収書作成法は規定されていない、法律上問題は無い」と国会答弁をした。驚くべき見解だ。社会通念上こんな理屈は通るわけではない。政治資金の流

れを透明化する規制法の趣旨を骨抜きにする。改善通知のみで幕引きするわけには行かない。政治費は生活費では無い。(28・10)

ボブ・ディラン

♪片隅で聞いていたボブ・ディランあの時の歌は聞こえない「学生街の喫茶店」のガロが歌っていた。時は流れ、抵抗の象徴だった「詩」が

感動を与えたあのミュージシャン「ボブ・ディラン」が何とノーベル文学賞を歌手として初受賞した。

ビートルズと並ぶロック界の革命児への受賞は、文学の枠を広げた。文学の概念が変質するとの反論もある中で・・・

彼はアメリカの伝統的なフォークソングに強い影響を受け、娯楽と見られたポピュラーミュージックを芸術の域にまで高めたことになる。日本でも高校の英語や音楽の教科書に

登場している。

60年代、ベトナム反戦運動を背景に、重いテーマの『風に吹かれて』は代表作で人間の尊厳と終わらない戦争への疑問を呈示し『答えは風に舞っている』と歌い、先行き不透明な時代を表現していた。

この賞によって彼の仕事は、言葉の芸術をギターとドラムで大衆に与えた『詩』つまり、文学が音楽的な存在である事を示している。(28・10)

銀座・室町パレード

10月7日、リオ五輪とパラリンピックのメダリスト87名が合同で、都心の銀座から日本橋室町までの中央通り2.5kmに亘って、約80万人の歓声に応えて、パレードが行われた。

スポーツに関しての合同のイベントは曾ては、健常者は文部科学省・障害者は厚生労働省と所管が分かれていたが、昨年10月スポーツ省が発足

4年後の東京五輪を見据えて双方の垣根を無くし、一体感を高める意味での象徴的なイベントとなった。

オーブンバスなどに分乗した選手たちは、周囲の大歓声に応えた様子が実況放映され夫れ夫れのスター選手によりリオの感動に感謝の意を表した。吉田沙保里選手が『初めての五輪・パラリンピック合同パレードで『同じチームジャパン』としてパレード出来たことをうれしく思う』と挨拶した。思いは4年後の東京五輪である。(28・10)

高齢者

高齢者とは何歳か？ 国際的には、統計上65歳以上を高齢者と言っている。総務省(9・15)発表の該当数3461万人は総人口の27.3%に当たり過去最高になる。

介護保険適用や厚生年金受給開始も65歳に引き上げる。医療保険は

70歳で原則3割を2割に、高齢者雇用安定法の定年を60歳以上と線引きは異なる。

平均寿命が伸び、若々しい人が増え、『高齢者は？』のアンケートに70歳以上が41%、65歳以上は20.2%とある。健康寿命つまり自立して暮らせる期間が長くなり、活動の場を増やすべきである。2016年度の厚生労働省白書は高齢者の増加と人口減少が進む中、生涯現役の環境を整えようと、意欲ある高齢者が働き続けられる雇用対策を打ち出している。

人生最後の10年ほどは大半の人が医療や介護に他人の手を必要とするので、私自身、人生85歳限界説を尊重しているが、高齢者とは75歳からの呼称として欲しい。(28・10)

東京校歌祭り

第24回『高校の同窓生たちが歌

う”東京校歌祭が10月23日、杉並公会堂で18校及び特別参加4校により盛大に挙行された。

現在の中学校・高等学校の校歌は、創立時の教育者が中等教育の理念を歌い込んだり、有名作詞作曲家によるものが多く、寮歌の旧制高等学校の寮生が作詞作曲したものと趣が異なり、「寮歌」は青春の思いの発露「校歌」は教育理念の理想であると言える。

東京の場合、昭和18年都制が敷かれ、府立・市立のナンバースクールが夫れ夫れ“都立地名校”に改名、編成された。更に戦後の学制改革で高校に昇格した経緯がある。母校も、第一東京市立中学↓都立九段中学↓都立九段高校↓千代田区立九段中等教育学校と校名は変わったが、校歌は変わらず、この日ばかりは大声で歌い、懐かしいひとときを味わった。ちなみに出演参加校は、九段・小松川・

武蔵丘・第三商業・墨田川・小石川・新宿・江北・豊多摩・文京・石神井・立川第一商業・戸山・西・千歳・小山市・両国。(特別参加)一橋大・東大・慶大・早大
(28・10)

電動アシスト自転車

(警視庁：使用控え、検査を！)

既報(28・04)パンク代13000円の電動自転車「日本タイガー電器(Bicycle 452)」がモーター補助率の基準違反で、警視庁はその他の会社の6製品を含めて、転倒事故多発のため、その使用を控え、検査するよう指示した。

警視庁では6月に自転車産業振興協会から当該基準違反の連絡を受け、9月に6社7製品を1台ずつ検査したところ、何と(Bicycle 452)は通常2倍までの許容比率が実に630.76倍と大幅に越えていた。(いずれも中国製)

電動自転車急発進の転倒事故(私も「27・07」ジャリ道で転倒、深い擦り傷等)は1394件とのこと。パンク130000円どころではない。

道路交通施行規則では原動機付き自転車となるが、保安基準で定められた“方向指示器など”を備えておらず、公道は走れない。これまでに販売された4536台は基準違反の恐れがあり、愛用しているお母さん(ママチャリ)方に使用を控えるよう訓告している。便利なのだが、何かと問題を起すメーカーである。検査が必要なのだ。基準値2倍に押さえられるのか！
(28・11)

アルツハイマー型治療薬

認知症の中で最も多いアルツハイマー型の治療に4種類の薬が使われる。この症状は脳に異常なタンパク質が溜まり、神経細胞が破壊され、記憶力の低下などが現れる。現在著名

な4種類の治療薬が使用されている、いずれも完全に進行を止める事はできないが、一時的に症状を改善させ、進行を遅らせる効果は期待できる。

1999年「アリセプト」だけが、2011年に「ガラントミン・リバスチグミン・メマンチン」が加わった。患者の生活習慣にに応じて、薬剤の形態も錠剤・粉薬・貼り薬などを使用する。昨年9月担当医師らが「抗認知薬適量処方を実現する会」を設立し、医師による効果や副作用を見極めて、選薬や使用量を調整、規定量より少ない保険診療を保険適用認定に向かっている。行動に副作用が出ないよう、生活改善効果が期待できる。なりたくは無いが、頼れる薬は頼もしい。(28・11)

御嶽海ついに新三役

九州場所の新番付が発表された。秋場所で全勝で初優勝した大関豪栄

道が初めて綱とりに挑む。御嶽海が新小結に昇進した。東洋大学出身の学生横綱で、全日本選手権アマチュア横綱の2大タイトルを含む計15のタイトルを引つ提げて、幕下10枚目付け出しでデビュー。所要10場所での三役昇進は昭和以降5位の速さになり、長野県出身では元関脇高登以来、なんと84年振りの快挙である。出羽海部屋入門には、公務員就職を蹴つて、自分を試し、親方(元小城乃花)から部屋の新興(名門部屋に關取不在)に力を貸して欲しいと言われ、意気に感じて決めたという。角界入りの記者会見で大勢の報道陣を前に「出羽海部屋を引っ張って行きたい」との決意表明が初々しかった。

横綱・大関陣再挑戦で三役定着を目指し、遠藤・正代・高安・北勝富士(大輝)ら次ぎを背負う一員として、郷土力士御嶽海を応援する。

(28・11)

泡坂妻夫氏(直木賞作家)

菊友会(第一東京市立中学同窓会)会報から同窓生の「泡坂妻夫」氏のショートストーリーを見聞し、氏が厚川昌男の筆名と知った。履歴から厚川氏は昭和8年生まれ、神田今川小学校から、旧制最後の九段中学校夜間部入学、私とは一度も接点の無いまま戦中の住居「日本橋本町4丁目」から数百メートルしか離れていない「今川橋」の川ひとつ隔てた「神田鍛冶町角の乾物屋で勝栗買ったら堅くて噛めない」の鍛冶町生まれと知った。鍛冶町の星乾物店はミス八重歯の「星ユリ子」ちゃんが生きた。あの通りは「六毘沙」で賑わっていた。懐かしい思いでの土地である。

直木賞作家(平成2年)泡坂妻夫氏の文学作品は異色で、文壇に特異の地位を築いて居たが、平成23年大動

脈破裂で急逝されたと菊友会会報83号に哀悼文が載せられていた。幼少から手品に興じ、長じてプロ(石田天海賞受賞)に、文壇デビュー後も作品にもマジックが原点にあった。作品の意外性は驚くばかり惜しい方を亡くし新作はもう無い。きつとトリコになる。図書館で一読をお薦めする。

(28・11)

下駄・畳・廁(かわや)

このタイトルで三十年ほど前、剣友会誌「こころ」に掲載し、それぞれの意味と剣道修練の繋がりを、少年剣士たちに話した事がある。つまり、素足の踏み切り・正座・蹲居(そんきよ)への関連である。

現在は「下駄」から靴に変わり、「畳」の部屋が洋式化で減り、椅子の生活で正座することが無くなり、トイレつまり昔風には「廁」が腰掛け式となり、足腰、膝関節、アキレス腱を鍛え

ることから掛け離れてしまった。

昨今、小中学校では、便所に関して和式から洋式に変える方策が取られそうである。生活様式の変化は、剣道の修行鍛練が再評価され、足腰の鍛錬に役立つことになる。

排泄行為が健康問題として、教育面で取り沙汰されているのだ。

(28・11)

高齢者運転(相次ぐ死亡事故)

最近、高齢者の運転事故が多発して新たな社会問題になっている。加害者本人はもとより、被害を蒙った家族の苦しみは如何ばかりか。

高齢者は長年の運転に自信があり、利便性のため運転免許証を保持されている。適性試験を受け免許更新をパスしても高齢による突発性の意識喪失の発作は防ぎようがない。認知証が絡むと、本人の自尊心が免許証返納を拒否するのだ。

私は現在心身健康を誇っているが、高齢のため83歳で3年前更新時に返納している。自転車と他の交通手段で日常何の不便も無い。高齢者の運転は僻地や交通不便の地域では必要ではあるが、事故多発の対策として、来春道路交通法改正で75歳以上の認知症機能検査が加味される。今後は「自動運転」が伴席者同乗を義務づける以外、高齢者の身体事情に絶対大丈夫はあり得ない。年齢の線引きをせず、ご自身で判断すべきである。

免許証返納者に特別割引制度を付し、タクシー券や無料交通券を配付すべきである。

(28・11)

トクホのチェック

消費者庁は9月、特定保健用食品(通称トクホ)初の許可取り消し商品を発表し、許可後のチェックの検証の必要性を示した。日本サプリメント

ント社「ペプチッド」6点だ。

「トクホ」は健康ブームに対応し、健康食品が国の審査を受け、健康効果を表示できる言わばその商品の販売に、国の「お墨付き」の安全性を担保するものである。当初は2年毎の更新制が必要であつたのが、事業者負担軽減のため96年に4年毎に、また97年には全面更新制度が廃止された。何か裏がありそうだ。

今回は「6商品」に成分含有量不足や全然含まれていない等不正商品の販売を続けていて、社会的信頼性を裏切った行為である。

主婦連合会は、消費者はトクホマークと商品の表示で成分量を判断するしか無く、こんないい加減な事態では更新制の復活と事後点検のルール化を国が責任を持つて



対応して欲しいと要望している。お手上げマークでは困るのだ。

(28・11)

健康補導員(須坂市)

銀座にある「長野県アンテナショップ」のイベントスペースで先頃「第3回健康寿命を伸ばそう! アワード」厚生労働省表彰(既報26・12)を受賞した長野県須坂市を紹介するイベントが開かれ、「健康体操・須坂エクササイズ」が披露された。

指導役としてステージに立ったのが地域で健康作りに取り組む「健康補導員(ボランティア)」達である。現地では269人の女性が10ブロックで活躍中だそうである。

意外なことに平均寿命日本一の長野県には特別な対策は無いとのこと(同県)。その中で住民に密着した「保健補導員」の無報酬の活躍が快挙の一端を担っている。県内77市町

村の内なんと76地域で実働隊として活動している。須坂市は活動の発祥地なのだ。自分たちの健康を守る保健補導員制度の活躍が県民の健康意識を高め、ガンの予防・治療に良い影響を与えているのだ。(28・11)

食と健康フォーラム

「幸せで、健康で、長生きの秘訣」として治療と講演で著名な、長野県諏訪中央病院院長の鎌田實先生が先頃「食と健康フォーラム」で、日々の食生活に、信州特産の「凍(し)み豆腐」「一般名「高野豆腐」を推奨されていた。

先生は30年前、当時「脳卒中」多発地帯であつた長野県に赴任され、爾来脳卒中予防の為、治療と講演活動に従事し、県内の保健婦さんや保健補導員(前報)といったボランティアの方々と生活習慣改善や健康作りのアドバイス活動を続け、短命県を

長寿日本一に育て上げたことは有名な事実である。減塩や野菜の多食、そして「凍み豆腐」や寒天など地産伝統食の改善と普及に努められた。特に「しみどうふ（高野豆腐）」の効力は、含まれているレジスタントタンパクが血糖値や中性脂肪を下げ、また認知症に有効な「オメガ3脂肪酸」や「イソフラボン」も多く含まれていることが判明した。豆腐は90%が水分であり、凍み豆腐の保存性と寒冷による脱水で成分変化が促進されるのだ。信州特産を有効活用しよう。（28・11）

※タイトル「記備談語」について

「記事・備考・談話・語録」の頭文字から「きびだんご」として、健康関連情報や関係団体の新情報、世相のニュースから勝手連的に、日々アンテナを巡らせ、頭の老化防止に努めております。ご笑覧下さい。少しでもお役に立

てば幸いです。

薬剤師・指圧師・剣道6段・NAK認定歌謡講師 佐藤 玄祥（博）

サイパン戦跡巡り

平櫛 孝少佐 十字架の道行き

闇の向こうの真相は

協力 美濃部 幸恵
美濃部 欣平

『私はいま、灰色の十字架の重みに堪えつつ、長い長い茨の道の余生を生きている。』



平櫛 孝（ひらぐし・たかし）

1908年（明治四十一年）広島市に生まれる。広島陸軍幼年学校、

陸軍士官学校、陸軍大学校卒、陸軍野戦砲兵学校、陸軍砲工（科学）学校教官

陸軍省軍務局付、陸軍省（大本営）報道部員、第43師団参謀、陸軍少佐サイパン戦に参加、1980年没

☆総攻撃に出撃

昭和19年7月7日

『午前零時きっかり洞窟をでて総攻撃に出発した。第43師団の鈴木参謀長、吉田参謀と私が指揮官となり所在の兵、軍属、島民有志を集めてマタンシヤに向かった。』

私は砲兵科の出身である。かつての教え子独立山砲兵第三連隊の黒木大隊長のあだ討ちという意味もあって、山寄り道を選んで米砲兵陣地をもと

めて前進、
見つけたぞ、さあ行くぞ！
その瞬間目の前に火の玉が炸裂した。』

『敵艦内で蘇生しようとは……』
平櫛参謀は、マタンシヤ海岸近く



定宿 サイパンリージェンシーホテル
リージェンシークラブにて

ハイアットリージェンシーサイパン

(ホテル庭園海岸側に旧日本軍のトーチカが残る)
サイパン観光の中心地ガラパンにあり、この地区には大型ホテル、DFSギャラリー、ショッピング店、レストランなどが並ぶ。ホテル隣はアメリカンメモリアルパーク。広大な公園の一面に美しく整備された戦没将兵慰霊碑がある。美しい白砂とエメラルド色の海に面したこの一帯を戦前はポンタムチョウ市街地と呼んだ。サイパン第一学校、サイパン女学校、南洋寺があった。



サイパンの港 築港

「昭和19年5月19日第43師団第一次輸送船団が無事サイパンに着いた」戦前日本委任統治時代は築港（チッコ）と呼ばれていた。港は現在も活用されている。

に出血多量による仮死状態で倒れているところをアメリカ軍艦に運ばれ、フェルナンドというプエルトリコ人の水兵の輸血で救われたという。
忘れもしない命の恩人にハワイに収容されてから再会する。平櫛氏の感謝に、「神のみこころのままに」と

無口なフェルナンドはくり返したという。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

★玉砕の戦場から生きのび帰還したことは元軍人としてその後長い茨の道を生きていくことになる。戦争の傷は深く、重く癒えることがない。戦後70年を過ぎてもサイパン慰霊に訪れる一部の関係者や、インターネット上に「投降者卑怯者 日本軍の裏切り者」説が言われていることに慄然といたします。なにか悲しい気持ちに

なりました。

その運命の人に戦後七十一年目に生きるわたくしは、なんと云ったらよいのでしょうか……。

○サイパン肉弾戦 玉砕戦から生還した参謀の証言 光人社

○大本営報道部 言論統制と戦意昂揚の実際 光人社

戦死した戦友たちへのお詫び行脚のあいまに書き残したという二冊の本は、サイパン戦全容と大本営報道部を知ることが出来る記録戦史として、生き証人が後世に残した得難いものだと思う。

それがいかなる状況であつたにせよ、平櫛 孝少佐が生還したことは、フェルナンデス水兵が言う「神のみこころ」日本人の言うところの「宿命」であつたのではないか。

氏が生きたからこそ残された二冊の著書は、簡潔でわかりやすく、戦争の実態を知ろうとする大きな機会と

なつたのです。

医業のあい間を都合した夫と共に、七年間サイパン戦跡を慰霊巡拝した際の大切な戦跡案内資料でもありました。

「ある将校の投降」は

烈日サイパン島 中日新聞社会部
東京新聞出版局

昭和五十四年第一刷発行

平成七年七月九日改訂新版

ページ162に記載されたものです。

『歩兵二七師団長ラルフ・スミス少将の解任劇と相前後して、米軍をびつくりさせる出来事が起きた』ラルフ・スミス事件とは、

サイパン島タツポーチヨー山死の谷で日本軍の頑強な抵抗を受け前進できず多くの死傷者を出したため、師団長ラルフ・スミスが解任、更送させられた事件である。

これは、1944年6月22日〜24

日の出来事である。

「烈日サイパン島」では、この事件に前後して、『日本軍の高級将校が米軍歩兵第27師団（脚注米軍陸軍歩兵27師団）に投降してきた』と記述している。

日本軍の最高司令部の自決が7月6日である。最後の総攻撃玉砕は7月7日。

平櫛参謀はこれより、おおよそ16日も早く、東海岸ラウラウの米軍基地へ一人で行つて自ら投降したことになっている。

この『大物の投降』が平櫛 孝少佐だという確たる信憑性はあるのだろうか。

……なぜお前だけが生き残ったのか……私の夫、私の息子、俺の戦友は死んだのに……お前を許せない……

戦後、玉砕の島から只一人生き残った高級将校の罪科（しおき）として

遺族の悲嘆と憎しみが歩きだし拡散していったものだろうか？

私には真相追跡を出来る立場も力もございませんので平櫛少佐が「投降した」とされる時期から7月7日の日本軍最後のバンザイ突撃まで、平櫛 孝著「サイパン肉弾戦」から守備隊の戦況と第43師団や御自分の行動をどのように記録し綴っているか追ってみることにいたしました。「サイパン肉弾戦」から日を追った記録を抜粋し、一部要約して書いていきたいと思えます。

43 師団司令部の後退経路

- ①チャランカノ国民学校 ②カルタブラ谷南郷神社奥 ③師団輜重隊洞窟 ④ドンニイ水源地近く ⑤六月二十四日 電信山陸海軍合同司令部(自然洞窟に築城要員が拡大工事) ⑥地獄谷

昭和19年4月(1944年)

「名古屋にあつた第43師団に動員命令下る。」

昭和19年5月14日

「横浜港より乗船 第一次輸送船団は、師団長斉藤義次中将、歩兵135連隊長と私(平櫛 孝参謀は東山丸でサイパンへ向かう。)

昭和19年5月19日

「5日間の航海後朝に無事サイパン着。

軍旗を先頭に二個歩兵連隊(歩兵第135、第136連隊の混成)

約一万人が威風堂々とガラパンのメインストリートを行進しサイパン神社に詣でた。

住民は日の丸の小旗を振り、喚声を上げて迎えた。

到着後の一週間は、師団長に島の有力者の表敬訪問が続いた。」

*一九二三年より「南洋群島」の近代化に力を注いできた日本の委任統治領サイパンには医師会もあり、病院や開業医も多かったことを知り感慨深いものがあります。

昭和19年6月7日

昭和19年6月7日

「第二次輸送船団全船沈没 生存者は約1000名」(この中に映画「太平洋の奇跡」の主人公大場栄大尉も居ました)

昭和19年6月11日

43 師団司令部①チャランカノ

「米軍機による爆撃始まる。司令部がチャランカノの国民学校に設けられ、やっと業務が軌道に乗り始めたばかりであつた。」

昭和19年6月12日

「アスリート飛行場のわが軍飛行

機の大部分が地上で消失、
または戦闘中に行方不明」

昭和19年6月14日

師団戦闘司令部②南郷神社奥

「13日より米軍の艦砲射撃、師団司令部も集中砲撃を受ける。死傷者続出。敵弾にもぎとられた血まみれの右手をブラ下げて、軍医のところへ治療に来た気丈な兵士もあった。」

南郷神社の谷（カナルタブラ）に戦闘指令所を急ぎ設けて移動する。」

＊戦跡「黒木山砲兵大隊慰霊碑」のあるススぺ内陸部カナルタブラの奥に破壊されたままの石の鳥居や灯籠が苔蒸した姿で残っています。

＊チャランカノアから後退した師団戦闘司令部は、さらに山道をのぼった自然洞窟にあって

た。内部には祭壇が設けられた痕跡があるという。現在山道はジャングルとなり、分け入るのは大変になっていると聞いている。

昭和19年6月19日

「第43師団戦闘司令部米軍の直撃弾を受ける。

午前8時、米軍の砲弾が撃ち込まれ炸裂した。閃光一瞬、煙にむせ返り洞窟内は修羅場と化す。

包帯姿で勤務中の前田重義大尉は即死。茂木中佐は片足をもぎ取られ、森曹長は腹部に重症、名古屋出発前に結婚したばかりの島田曹長は胴体がちぎれ、血の海の中を上半身だけ水筒を求めてうごめいている。」



日本軍最後の総攻撃タナバグ海岸

昭和15年7月7日 およそ3000名の将兵、サイパン青年団員などがアメリカ軍陣地へ覚悟の突撃を行い玉砕した海岸。人気の無い深閑とした海岸に立つと、今も兵士たちの雄叫びと悲しみが聞こえてくる。

地獄絵さながらの戦場の有様と、上官や部下たちの忘れえぬ悲惨な姿を書き残している。
平櫛参謀も敵弾の小破片が、戦闘帽から前頭部に入り頭蓋骨を一周して後頭部からとびだしてい

た。血が噴出し三角布も赤く染まる。
この時「伝令！」と叫びながら兵が駆け上ってきたが、司令部内の惨状が諸部隊に広がり、士気喪失になってはと「入っちゃいかん」と怒鳴った。しかし「将校伝令！」



1944年7月7日のバンザイ突撃より70年後の2014年7月7日に私共は現地を訪れてささやかな追悼をさせていただきました。ミセスヨネコバreshinas、ジャックさん、美濃部欣平、幸恵

と兵が叫び返すと「将校一名は入れ」と応答があった。
「入るな!」「入れ!」その平櫛参謀の混乱ぶりを当時伝令に來た梶川少尉から後に聞いたという。



野戦重砲兵第9連隊第2大隊黒木大隊玉砕の地 南郷神社跡
ススペ地区内陸部のカナルタブラ谷にある黒木大隊顕彰地をさらに奥深く進むと南郷神社跡がある。戦時中は南興神社と名前が似ていた為、兵士の集合場所に混乱が生じた。
第43師団はチャランカノアから後退し、南郷神社裏山の山道を登ったところに急遽2度目の戦闘司令部を設けた。
今は山道も荒れ果て司令部跡に行くのは困難という。

仮の戦闘司令部へ
軍命令は「後退しタッポーチョー山を死守せよ」というものであった。
平櫛参謀が重い心で起案した退去命令に師団長の決裁が下された。

「末端の部隊にまで、後退命令を伝達するため司令部全員が行動に移った。さらに退路を断たれる前に師団長を案内して崖をよじ登る。斉藤義次中将は仙人の持つような杖をついて、何もしわずに私（平櫛参謀）のあとに続いた。

途中で師団通信隊長の鷺津吉光大尉に会った。鷺津大尉は後日、島北端付近で戦死したと思われる。」

＊この北部への移動で見た光景の描写は、戦後七十一年を過ぎた現在でも悲惨さ、痛ましさに心が震えます。

『ガラパン方面からの島民にまじって、指揮官を失った兵士がボロボロの軍服をまとって亡霊のようにさまよっている。

極限の状況下に錯乱状態になり、

わけのわからない卑猥な言葉を大声でわめく兵士、全裸の女が戦場をさまよい歩く。……』

＊サイパン戦の特異性は日本委任統治領として在島していた移住者、行政関係などの一般邦人約2万人が巻き添えとなり、逃げ場を失い軍と行動を共にしたことでありました。

師団戦闘司令部③師団輜重隊の洞窟へ

「ラウラウとドンニイへの道の分岐点で高品大尉と交代で、さがってくる兵を部隊別に区分する。分岐点付近は師団の弾薬、糧秣の集積所があり、さがってくる兵にこれらをもてるだけもたせた。だが米機はジャングルの中の集積所を発見し射撃してくる。

師団長を師団輜重隊洞窟に案内後、

高品大尉と同じく次の戦闘司令部ドンニイ水源地の偵察に司令部付藤井進大尉、長坂茂少尉を同道し師団輜重隊のトラックで出かけたのは黄昏時であつた。」

＊まだ戦線から離れていた水源地ドンニイでは水を汲む兵が、島民と和やかに談笑している風景も見られたという。『一滴の水を求めながら死んでいった戦友たちにこの水を飲ませてやりたかった』と平櫛少佐はやるかたない胸のうちを綴ります。

「途中情報を聞くために立ち寄った独立自動車第264中隊中隊長岩間惟臣大尉が、ドンニイの水で入れてくれた番茶はひときわ美味しかった。

支那戦線でも一緒だった岩間大尉とはその後彼の最期の情報もわか

らず再び会うことはなかった。月が東天ラウラウにのぼるころ師団仮戦闘所に帰る。」

*6月19日朝、南郷神社奥の師団戦闘司令部が米軍の直撃弾を受けた際に重傷となった茂木中佐と森曹長は、『一番しんがりでさがつてきた次級副官石丸大尉一行が担架にのせて、断崖をよじ登ってきた』と書いてあります。険しい地形のジャングルを進むのは健勝者でも楽ではない。まして負傷者を担架にのせて断崖をよじ登ってくる苦労は察して余りあります。生死を共にしてきた戦友同士の絆あつてこそ堪えられたのだろうか。ただただ頭がさがります。

こうして第43師団と平櫛孝参謀の戦陣は、最後の抵抗線を島北部へと、わずかな希望を繋ぎ後退

していききました。

投降したという時期以後も、1944年7月7日の運命の日まで、血と汗泥と涙。戦塵にまみれた戦場日誌を綴っております。

闇の向こうの真相は？

「『新しい軍服に身を包み』『単独で歩いて投降してきた』『烈日サイパンP162』『ぴかぴかの軍靴を履いていた』『帝国陸軍にもひどい参謀がいたものだ』『横森直行著提督角田寛治の沈黙P152』」

さらに戦後、平櫛孝参謀については「捕虜になった時偽名を使っていた」という情報がながれる。亡き夫の名を使われたと、怒ったご遺族は「この腰抜け参謀」「許しがたい」「問題参謀は土下座をした」等が連隊史に載っています。

御遺族の、やるかたない深い悲

しみも、地獄の戦場を生き抜いた戦友方々の決して癒えることの出来ない心の傷も、わたくしは共感できます。そして陸軍幼年学校から一貫して軍人人生を歩き、戦後は「己を黙して語らず」であつた平櫛少佐。

どちらの立場も『本当に悲しすぎる』『あの戦争をわすれないで。との思いで戦争のことを書いております。

マタイ傳第七章 二九節 茨の冠を編みてそのこうべに冠らせ 三〇節 またこれに唾し 三二節 嘲弄してのち 十字架につけんとて曳きゆく

つづきます



島津斉彬の死

服部 瑛

はじめに

江戸時代後期の『安政記聞』という当時の出来事を書いた古文書が残されている。その中で、コレラの大流行の詳細を知ったのだが(註二)、その他に当時の幕府や朝廷での出来事が記録されていて、安政時代の事件や営みが身近に迫ってくる。ともかくも激動・激変の時代だった。黒船の度々の来航、日米和親条約や日米修好通商条約の締結、大地震や大火事、安政の大獄、將軍家定の突然死、彗星の出現、コレラの大流行などなど、そして安政を終えてすぐに井伊直弼の暗殺があつて、世は激しく変革していった。

この時代から、十年たたずに明治維新を迎えるのだが、作家吉村昭は

「桜田門外の変から明治維新までわずかに八年であることに驚きを感じた」と述べ(註二)、『逆説の日本史』で有名な井沢元彦はなんと変革のスピードが遅かったのかと嘆いていて(註三)、両者の時代を見る感覚の差がおもしろい。

こうした激動の時代には傑出した人物が輩出するようで、西郷隆盛、吉田松陰、坂本龍馬などなど枚挙に遑が無い。その中に英明だったとされる薩摩藩主島津斉彬がいた。安政五年七月に突然亡くなった。今回はその死について愚考してみようと思う。

コレラ説と暗殺説

島津斉彬は、安政五年七月八日に発病して八日後の十六日に死亡した。『安政記聞』では、「薩州候も来府途中ころりニテ卒去被成候」とあつてコレラで死亡したとの風聞があり、吉村昭もその説をとっている。それ

に真つ向から異を唱えたのが海音寺潮五郎で、暗殺説だった(註四)。井沢元彦もその説をとつて、『逆説の日本史』でそのことを詳しく解説している。

その説を簡単に述べると、島津斉彬は、ライフル三千挺を作つて、精兵三千を率いて京に登り、「朝廷および天皇」の後ろ盾となつて日本の政治を改革しようとする革新的な思想の持ち主だったが、それは当時の憲法であつた「武家諸法度」に違反する行為で、反した藩はただちに改易される。父の斉興は、その違反行為による改易を恐れ、また革新的な斉彬を大いに嫌い、むしろ妾腹の子久光に家督を継がせようと考えていたこともあつて、斉彬に毒をもつて暗殺した、というのである。

当初なるほどと思つてその意見に感心したのだが、実の子供を本当に暗殺できるかしらとも思へたし、あ

るいは島津斉彬は、老中阿部正弘の推挙で薩摩藩主になった訳だから、もし暗殺が幕府に知れたらむしろ大変なことになるはずだなどと思うと、俄には信じられない気持ちにもなっていた。

池田俊彦の『島津斉彬公伝』

まさにそんな時、池田俊彦の『島津斉彬公伝』（註五）という本を偶然古書店で見つけた。大著である。著者の略歴は、「明治十三年鹿児島鹿屋市に生まれる。東京大学文学部西洋史学科を卒業。東京の麻布中学、学習院で教鞭をとりながら、島津家編輯執所に勤務、島津家国事軌掌史料の編纂にたずさわる。昭和五年、鹿児島県立第二中学校長に招かれ、終戦まで十六年間、県教育界の重鎮として時代の要請に応え郷土子弟の教育に尽力した。またこの間、実地に即して郷土史の研究を深めた。」とあった。勉

強不足の私には初めて知る人物なのだが、どうも島津家の歴史に関する權威のようにも思えるし、一読して主観ではなく、客観的に歴史を対処しているという印象を持った。

早速繙いてみると、島津斉彬の死は「安政五年七月九日より発熱、腹痛下痢はなほだしく、病状日を経るに従い漸次險惡となり、久光との袂れの水盃を取りかわし十六日暁方逝去した。（一部略）」とあった。当時は「容態（躰）書」なる病状を残すことが当たり前のことで（註六、斉彬侍医の蘭医坪井芳州の容態書が残されていた。貴重な史料なのでそれを全文掲載してみよう。

坪井芳州の容態書

七月九日。夜拝診候処時候当リノ御模様ニテ御塞熱被為在御舌胎厚ク御腹部拘攣大小便少宛御催有之候得共御快通無之候。御抱剂接骨花加蜜列

蜀葵花珊瑚簾里小茴香二礪砂二瓦宛加へ調進候。

同十日。御熱氣強ク被為入御腹痛下痢數行被為在候御腹部定所之劇痛等無之瘰癧痛之御模様ニ奉診察候。御煎剂サアレツ煎ニ加密列接骨花小茴香甘草泡出差上申候蜂蜜アルタア煎ニテ浣腸被遊候。

同十一日。御容態御同様ニテ御下痢昼夜四十行御熱少シ薄ク被為入御小水御通不宜候。御葉前方夜分御安眠無之候而ヒヨシヤエキス五瓦御腹用ニ相成候毎日數回サアレツ煎ニテ御浣腸被遊候。

同十二日。御下痢昼夜卅三度御赤痢ニテ血交リ御滑使被為入候裡急後重御強ク御熱候御同様御脈搏一密扭篤二十八七八度或九十四五度御食機不宜サアレツ煎ニ藳木香砂仁加密列少宛泡出調進候。

同十三日。御下痢昼夜三十二度御赤痢血便薄ク御熱候輕ク裏急後重シ御

少ク御舌胎薄ク御小水御通不宜候御煎菓前方御散菓ニ格綸模越幾私臣利比屋護謨調進御腹部ニ緩和蒸劑差上候。

同十四日。御肌熱薄ク昨夜ヨリ時々御便中赤白相交リ御完穀モ相交リ御安眠不被為入御勞倦被為在御音声モ無御力サアレツ煎ニカスリルラ水楊梅加密列泡出コロンボエキス御散菓ニ竜腦加へ調進候。今日夜御下痢廿三度ニ減少御本便變リ御通被為入候得共御食事至而御少益々御勞倦被為入御脈狀細數ニ奉窺候。

同十五日。今朝ヨリ御脈益々御細數御勞倦増加御手足微冷御下痢昼十度被為入候其中御本便四五度御通有之御小水両三度御快通御食事御宜敷稍御整腹之御模樣ニ奉伺候晩方ヨリ御疲勞相増御虚煩之御模樣ニ奉診候コロンボエキス竜腦御散菓ニ幾那塩配調御腓腹ニ芥子琶布差上申候何分御氣腹之御容体被為在候故ホフマン

液麝香礪砂精等之御藥劑頻ニ奉調進候得共至極之御難症ニテ御藥劑奏効無之御大切奉恐入候御容体ニ奉伺候。恐惶謹言。

七月十六日。

坪井芳州

愚按二初日三日單純善性御痢疾御容体ニ奉伺候処終末転變御虚脱御症狀者全ク當時流行性之コレラ病狀被為入歟奉存候。

詳しく病狀および治療が示されている。病狀の部分だけ太字で示しておいたが、刻々変わる病態を正確に記載していて、決して捏造では無さそうである。

その症狀は、最初発熱からはじまつて、腹痛を伴い、下痢が主症狀である。下痢の回数、二日目下痢數行、三日目が夜だけで四十回、四日目昼夜三十三回、五日目昼夜三十二回、六日目夜下痢二十三回、七日目昼十回、そして死に至っている。コレラは「三

日ころり」(註七)とも呼ばれていたことから、三日目が最も重症になって死亡するのが普通で、斉彬も三日目の下痢回数が最も多い。しかし斉彬はその段階を乗り越えた。しかし多少解熱するも、食欲不振、頻脈細小になつて、勞倦(註八)に陥つて死に至つたのである。(なお赤痢とは病名ではなく、血を交えた下痢と解釈できる)。私たちの世代ではコレラ患者に遭遇する機会はほとんど無くなつてしまつたので、この容態書は貴重な情報となろう。また、発熱、腹痛、下痢の症狀は、『安政記聞』でみられるコレラの症狀にぴったりと符合していた。

井沢元彦は『逆説の日本史』の中で「斉彬は毒を盛るという手段で暗殺されたのだと、私は確信する」とさへ述べ、「斉彬は自分で釣つた魚をなれ鮓(一晩で発酵させる寿司)にして食べていて、それを居間の棚に置いて

いた。だから、藩士やお由羅（註九）の息のかかった奥女中なら置毒は十分に可能だった。」と推察している。どんな毒かは不明だが、もしそうだった場合、医学的に言えば、毒を与えられた直後が最も症状が強く、日を経るごとに毒による症状が軽くなることが一般的である。そして通常発熱は無い。例えば、二枚貝の貝毒を調べてみると、下痢を主症状とするが、三十分から四時間以内の短時間で起り、以後消退すると記載されている（註十）。

発熱を伴い、下痢があつて、次第に重症化して死亡、これこそコレラの症状なのである。いかに暗殺の状況証拠がそろつていても、容態書から見える所見は毒殺ではありえない。細井芳州の「容態書」が事実ならば、斉彬はコレラで死んだとほぼ断言できるのではなからうか。

コレラの流行

それならば、薩摩に当時コレラが蔓延していたかどうか、あるいは蔓延しなくとも斉彬がなんらかの理由でコレラに感染したかが問題になってくる。コレラの潜伏期は一日から三日とされているので、安政五年七月三日前後には斉彬はコレラに感染していなければならぬ。

『安政記聞』では「於出島千八百五十八年七月十三日 此両三日中出島市中共一時に下利且追々吐加申候右患症之者既に此十二日一時に三十人相煩」とあるから七月十三日には長崎出島ではコレラの流行は蔓延していたようだ。さらに「帰国アメリカ蒸気船ミコシスレツヒルにおいても右様の腹痛多人数に御座候」と書かれていることから、アメリカ蒸気船からコレラが流行した可能性が非常に高い。七月十三日には長崎出島で相当数の患者がいたとするならば、

コレラはすでにそれ以前に感染が起こっているはずである。それを知るためにはアメリカ蒸気船ミコシスレツヒル号が何時出島に到着したかが重要な鍵になってくる。

その際、感染経路が陸路ならば、すでに述べた上原元伯の書から前橋元総社安政六年八月十二日（註十一）、高崎では倉賀野神社の日記から同年八月十四日（註十二）だったから、近い距離でも二日程度かかることを知ると、長崎から鹿児島まではいかにも遠い。やはり海路を考えねばなるまい。当時長崎出島には数は不明だが異国船がしばしば入港していた。島津斉彬のような日本の立場を憂慮した先見的な人物ならば、異国の状況を調べるために長崎にしかるべき人物を配置して、定期的にその情報を受け取っていたはずである。そんな役割を担っていた人物は、長崎でコレラに感染したとしても無理を押

し通しても斉彬に報告したにちがいない。その際、その情報、幕藩体制の当時では陸路であるはずは無く、長崎から鹿児島まで当然海路で伝達されたものと推察される。あくまでも推定ではないが、安政五年七月には薩摩でのコレラの流行はあつた可能性が高い。たとえ薩摩でのコレラの大流行が無かつたとしても斉彬にコレラの感染は十分に考えられるのである。坪井芳州の容態書はそれを示しているであろう。

おわりに

安政五年に長崎にもたらされたコレラは、海路、陸路から西方の西日本から江戸にまで大流行したことが『安政記聞』にしっかりと記されている。それは同じように南下して九州各地にも伝播したはずである。海路ならば、短期間で長崎から鹿児島まで感染可能となる。島津斉彬のコ

レラで死亡したことはなんら不思議ではなく、辻褄が合うように思えるのである。

今回医師の立場から島津斉彬の死を想像してみたが、このことが島津斉彬を精力的に調べた池田俊彦氏の顕彰に繋がれば嬉しいことだし、暗殺を指示したとされる島津斉興の汚名が晴らされるならば光栄なことである。

参照した古文書は、は群馬県立文書館所蔵『安政記聞』倉賀野神社『納戸日記』のものである。

註と文献

- 一 服部瑛…医科芸術、六二八…一四、二〇一六。その他、服部瑛…古文書と暴瀉病、歴史研究、六四三…
- 十二、二〇一六および服部瑛…古文書と暴瀉病、その二、歴史研究、六四七…一四、二〇一六に報告し

た。

- 二 吉村昭…桜田門外ノ変、新潮文庫、二〇一〇。安政六年三月桜田門外の変の後万延三元年に改元された。
- 三 井沢元彦…逆説の日本史19、小学館、二〇二三
- 四 海音寺潮五郎…西郷と大久保と久光、朝日文庫、一九八九
- 五 池田俊彦…島津斉彬公伝、中公文庫、一九九四
- 六 服部瑛…容躰書、群馬県医師会報、八二二…四六、二〇一六
- 七 コレラは当時暴瀉病と呼ばれ、その他冷徹疫、三日ころりとも呼ばれていた。高崎倉賀野神社の『納戸日記』には「三日共不煩して病死ス」とある。
- 八 漢方用語で、疲れて嫌になる状態を言う。
- 九 薩摩藩の島津斉彬をめぐる「お由羅騒動」の時の張本人。父斉興の側室でその子が久光である。「高

崎くずれ」とも言われ有名である。

十一 ネット上の情報

十二 服部瑛…暴瀉病について、群馬県医師会報、七九九…三八、二〇一六

〇一六

十二 服部瑛…倉賀野神社と暴瀉病、群馬県医師会報、八一九…四三、二〇一六

次号 原稿募集のお知らせ

次号 締め切り

平成29年5月9日（火）

毎号、会員のみなさまのご協力、誠にありがとうございます。
（ご）

今号（冬季号）の発行が大幅に遅くなってしまう
お詫び申し上げます。次号の原稿を募集させていただきますが、このままでは春季号としての発行は難しいかもしれません。できる限り早い時期に発行できるよう努力いたします。年4回の発行が乱れてしまい大変申し訳ございません。皆様のご投稿お待ちしております。

引き続き、会員の皆様のご支援、協力をどうぞ
よろしくお願い申し上げます。

※一部500円にて機関誌の追加購読も承っております。ご希望の方は事務局までお知らせください。

2017年(平成29年) 謹賀新年

日本医師会 会長 横倉義武	日本薬剤師会 会長 山本信夫	公益社団法人東京都医師会 会長 尾崎治夫	日本医家芸術クラブ委員長 太田 怜	日本医家芸術クラブ副委員長 美術部 榎本貴夫
日本医家芸術クラブ副委員長 写真部 本村美雄	日本医家芸術クラブ副委員長 邦楽部 山田新太郎	日本医家芸術クラブ副委員長 洋楽部 萩野仁志	日本医家芸術クラブ再生委員 美術部部長 白矢勝一	日本医家芸術クラブ再生委員 美術部副部長 鈴木啓之 秋には楽しい絵画展を開催します

2017年(平成29年) 謹賀新年

日本医家芸術クラブ再生委員

美術部

津谷 喜一郎

日本医家芸術クラブ再生委員

文芸部

安井 廣迪

新春をお慶び申し上げます

式場 隆史

医療法人 式場病院 理事長

本年、2月23日～4月16日、Bunkamura ザ・ミュージアムにて『ゴールドマンコレクション これぞ暁斎！ 世界が認めたその画力』展(主催:Bunkamura・フジテレビジョン・東京新聞)が開催されます。

文芸部

河鍋 楠美

蕨市 蕨眼科

公益財団法人河鍋暁斎記念美術館

小唄・端唄の元祖「歌澤」(古典邦楽)の火が消えそう
一番若かった名取り(歌澤寅竹枝)も86歳、残念です。

邦楽部・文芸部

佐藤 玄祥(博)

中野区鷺宮四―四三―一六 三法指庄所長 指庄師・薬剤師

新春を寿ぎ併せて本年もよろしくお願いいたします

洋楽部

浅野 尚

〒八七・〇〇一 千葉県香取市北三十二・一十二 浅野耳鼻咽喉科医院

クラブの御発展をお祈り申し上げます

美術部

森岡 秀行

〒七〇八・〇〇〇一 岡山県津山市小原一三五―十一

新春のお慶びを申し上げます

文芸(俳句)部

福富 清子

東京都 品川区

2017年（平成29年）謹賀新年

謹賀新年 本年もよろしくお願いいたします。

文芸部 藤倉 一郎

〒三六四・〇〇〇二 埼玉県北本市宮内一・二二二

迎春 本年もよろしくお願いいたします

サイパン戦跡めぐり

文芸部 美濃部 欣平

美濃部 幸恵

鎌倉市極楽寺

新春のお喜び申し上げます

美術部 野口 眞利

東京都練馬区 野口医院

新春をお喜び申し上げます
美術部の活性化を期待いたします

美術部 山崎 嘉弘

会員の皆様のお役に立てる様努めます。ご指導ください。

日本医家芸術クラブ事務局

〒一八七・〇〇四一 東京都小平市美園町一・四・十二

電話 〇四二―三四四―八〇五六

FAX 〇四二―三四四―〇八七九

※順不同にて掲載

多数の年賀広告のご協力ありがとうございました。



医芸俳壇



静岡 岩本 漂人

硫黄島猷花終わればクロアジサシ
薫風や船のマストにカツオドリ
ネッタイチヨウ赤い尾長し夏の空
母島のガジユマルに来るメグロ待つ
緑陰かシャッター音はカラスバト

東京 福神 規子

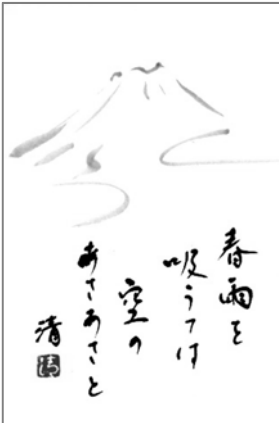
慰めはほんのいつとき曼珠沙華
ここな里^ら熔^ば岩を垣根に一位の実
鮎色の虚子全集や秋の雨
突堤に何釣る人や雲の秋
冬薔薇の深紅一瞥して去りぬ

東京 福神 規子

雪降るやランプが照らす司祭像
翫間を連れし芸妓も二の酉へ
みほとけは信女におはす冬の菊
鴨と鴨見て見ぬふりに擦れ違ふ
石路の黄のとりけさうなる日向かな

東京 福富 清子

金屏の迫力に伍す男舞ひ
韓の血を引くてふ老伎の秋扇
死の他は擦り傷とよ水澄めり
いごんゆいごんはたまたいげん長き夜を
爽やかやまたの日約しそれぞれに



医芸柳壇



群馬 豊泉 清

義理チヨコのお返しやはり義理で買い
インフルエンザ終わる頃には杉花粉
競い合う開花と花粉の予想記事
お花見は先ず売店で団子買い
長寿会春高齢の花の宴

医芸歌壇



モーツァルト

東京 小松 安彦

この秋も咲く彼岸花耳に毒注ぎたれどもその後を知らず

「運命」の第一楽章「ジューピター」の第一楽章聞かせしも秋

「これなら」と汝れは言ひたり「ジューピター」の第一楽章聞きたる時に

「幻想」を汝れは好みぬ晩秋にベルリオーズの恋を語りき

紅白と第九いづれを聴きゐるや歳晩の夜に汝れを思ひぬ

船旅

茨城 羽生 藤伍

船旅はイギリススペインポルトガルフランス巡り空路日本へ

巨大なるクインエリザベス初秋の大西洋を徐かに下る

果てしなき青海原に花のごと波頭はすべて真白く踊る

草原に巨大石柱重ねたり英國は謎のストーンヘンジ

リスボンにポルトガルの都なり歴史は長く揣摩が多いと

盛夏

茨城 羽生 藤伍

のうせんかつら

わが池に凌霄花散り浮び紅き金魚と水の面色どる

あじさい

ほど近き二本松寺の紫陽花苑赤紫から青まで広く

スマホ見つ街歩む人は二宮金次郎の現し身ならず

古きカメラ現像すればダンジリやチャグイヤグ馬コ旅の想い出

御退位とうテレビを見つゝ思い出す玉音放送聴きしあの日を

秋の出雲路(一)

東京 林 宏匡

コスモスに秋明菊のをちこちに群れ咲く見つつ出雲路を行く

おやしろかもす

そのかみの出雲大社の祖社神魂神社を友と詣でつ

太始なる神降り立ちしひとところ標めぐらされ厳かにあり

おやしろ

伊勢熊野杵築社の別社神在月に神在すやも

八岐大蛇首寄せ合ひて眠りしも一つで足りぬ吾が草枕

秋の出雲路(二)

東京 林 宏匡

すきのを

素戔鳴尊が新妻迎へて住みしてふ須賀の社の御護符購ふ

やしう

八雲立つ出雲八重垣大社須賀の社の名を知らしめつ

国神は許し給ふか群れ咲けるアメリカセイタカアワダチ草を

くけど

そのかみと八岐大蛇棲みしてふ瀬の辺に寄りて潜戸をのぞく

八百万の神を統べます天照らす大御神在す日本の国は

I・T時代

東京 横田 英夫

なかなか意見合^あわざる吾子^こなれど異國に発つと聞けば寂しも
乗り継ぎの空港ロビーよりメールあり息子と共に旅する思い
空港の免税店の品選びメールで決める恐るべきこと

窓よりの眺めメールに送り来る広葉樹林の只中にあり

今ヤンゴンこれから歸るのメールあり都内からかと思つ気軽さ

表紙の言葉

東京都立川市 岩瀬 光

『モーレン湖の映り込み』

9月のカナダ、ロッキーの撮影に出かけた。写真専用ツアーで、みんな参加者は、写真のハイアマチュア、大きなカメラと、三脚担いで参加した。私は、この年から、フィルムのカサがあまりにあるので、フィルムをあきらめ、デジタルに転向、海外撮影はデジタル初取りであった。不安の中、9月18日、カナダモーレン湖のほとりに立ち、素晴らしい水鏡に雪をかぶった山々が反射する光景に見とれた。空が曇り明暗差が大きく、山の陰と、反射を一枚に納めるのに苦労したが、なんとか納めたと思う。今後も、健康に気をつけて、国内、海外を巡り、良い写真を撮りたいと思う。

(第四十五回 医家写真展出品)

歌集『ひとつのいのち』

林 宏匡 著

林 宏匡先生の『ホルムスクの夕日』
に続く第十三歌集



平成二十年から平成二十五年までに
『医家芸術』を含む短歌関連所属機
関誌に掲載した作品を纏めた歌集



（前略）個人歌集とは歌人として生活する中で、日々の情動の移り変わりを如実に綴ることによって自身自身の生態を見つめ直して未来への希望を見出す因とすべきものであると日頃考えて居ります。

避け難い老境に向かつて、時々刻々と変化する情感の揺曳を大切にしながら、今後も「湖笛」草創社故林霞舟の説いた「主客一体」の歌境を求めて歩み続けたいと決意を新たにする昨今である。（中略）

尚、本歌集の平成二十三年詠には東日本大震災と大津波で犠牲になられた数々の尊い生命を憂う作品と「新老人の会」を立ち上げられて百五歳の今、尚健やかに会を主宰して居られる日野原重明先生の百歳を迎えられた時の祝福詠とを同時に収載する形となったが、災害によって不本意に散った生命も百五歳を迎えられた生命も「ひとつのいのち」として

今生に授かった貴重な生命であることに変わりはないと改めて思い返して居ります。（後略）

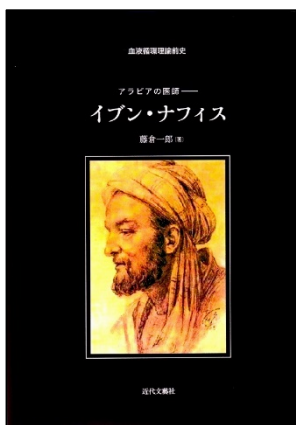
【あとがき】より
（湖笛会・二、五〇〇円）

『アラビアの医師―』

イブン・ナフィス』

藤倉 一郎 著

イブン・ナフィスの肺循環の発見は
アラビア医学の高度な発展を示す



アラビアの医師イブン・ナフィスはハーベイの血液循環発見のさきがけであり、13世紀の偉大な生理学者として高く評価されなければならない



ナフィスの生涯は臨床医学に捧げられた。彼は結婚せず、生涯独身で過ごした。彼は働きつづけ、死の直前まで本を書いた。ナフィスはアラビア医学のなかで、偉大な医師の一人であり、第二のアビセンナといわれた。医学と医学文献上寄与した業績は大きく、彼の独創的な発見である「肺循環の理論」をセルベートスやコロンボより三〇〇年も前に報告しているのは驚嘆するばかりである。十字軍とモンゴルの多年に亘る襲撃の中で優れた業績をあげたことは高く賞讃されなければならない。

ナフィスはアラビア医学だけな

しに、中世の偉大なる医師であつて、西欧では疑問視するむきもあるが、中世最大の生理学者といえよう。我が国でもほとんど認知されていないが、ハーベイの四〇〇年前に肺循環を発見していることは、血液循環理論におけるパイオニアとして評価されなければならない。

藤倉一郎

(近代文藝社・一、〇〇〇円)

※表示価格は税抜きです。

会員の著作を紹介する欄です。近著を事務局まで送ってください。





平成28年度 定期総会開催

平成28年7月31日に日本医家芸術クラブ定期総会が開かれました。

太田委員長を始め、榎本貴夫先生、小川昭子先生、白矢勝一先生、本村美雄先生、松木耀子先生、安井廣迪先生、山田新太郎先生がご出席くださり、前年末に副委員長をご勇退された初芝澄雄先生の後任として、副委員長を決める話し合いなどが行われました。副委員長は現在活動している各部からおひとりずつ選出させていただきました。4名で勤めることとなりました。選出された4名は、美術部より榎本貴夫先生、写真部より本村美雄先生、邦楽部より山田新太郎先生、洋楽

部より萩野仁志先生です。

尚、今号より巻末の『透視像』も4名の先生方にローテーションでお願いしてまいります。

他、クラブの現状と発展の為の話し合いや会計報告がされました。



平成29年度の会費納入のお願い

平成29年4月から平成30年3月までの年会費の振込用紙を送付いたします。お手元に届きましたら、郵便局にてお振り込みをお願いいたします。日頃より会員の皆様のご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



機関誌『医家芸術』発行の遅れのお詫び

今号におきまして、前年の秋季号との合併、そして今年の新年号にもかかわらず、発行が大幅に遅れてしまったこと、深くお詫び申し上げます。ご投稿いただいている先生方を始め、多くの会員の方にご迷惑、心配をおかけいたしましたこと誠に申し訳ありませんでした。人手不足により原稿をデータ化するのに多くの時間を費やしてしまい、ご投稿いただいた方への校正のご連絡が遅れてしまい、発行が遅くなつてしまいました。今後、どのようにこの問題に対処していくか、編集担当で話し合いたいと思います。度々の発行遅れで本当に申し訳ありませんでした。

透視像



天の声を紀行

榎本 貴夫

医家芸術の美術部門に参加し始めてから何年になるであろうか。大村光先生に推挙されてのことであつた。振り返つてみれば結果的に出品作はほとんどが風景であり、その季節は春秋が多い。

思うに私が、いや日本人がこれ程までに季節感を重視し、正月、節分、衣替、等々日常生活の行動規範の奥深くまでこれを持ち込んできたのは、西行などの先達もいるが、江戸時代初期の俳人松尾芭蕉が季語を介して地球の否、宇宙の造物神と濃密な交信を始めてからのことではないかと

思っている。「岩にしみいる蟬の声」の言葉を日本人は大切にして400年間も守り続けているのである。この言葉に説教臭さは微塵もない。翁によれば「笈の小文」に（・造化（自然）にしたがひて四時（季）を友とす。見る処花にあらずということなし・）とある。心を込めて在るがままの自然に向合えば、すべてのものが光と輝き花と香るのである、の意であろう。静かに現在の自然現状を考えつつ行動し、共存する精神が今最も必要かと思われる。

芭蕉翁のごとく季節の移ろい即ち自然、それに向き合う心の持ちようの中からは民族間の争いは起こるべくも無いのである。それに対して主義主張至上主義では布教、論戦、勝利が重要語句となる。そこでは必ず軋轢が生ぜざるを得ない。現在の米国の混乱ぶりを見るまでもない。アフリカに端を発した現代新人類20万

年長駆の歴史の中で今ほど理不尽な殺戮が連鎖している時代は無いかもしれない。

このかけがえのない、人類たつた一つの共通の家「地球」の声を今一度聴いて自分を見つめ直すことも必要ではないか。

編集後記



今回も発行が大幅に遅れてしまい大変申し訳ありませんでした。秋号との合併号であり、新年のご挨拶や年賀広告をいただき掲載する号でしたが、「新年号」とするにはあまりにも時期がずれてしまい、今号は「冬季号」と表記いたしました。「冬季号」表記ですが、日本列島では桜の開花も始まり春がもうそこまできています。今後より一層精進してまいります。よろしくお願い致します。（E）